

2018 年秋季年会

年会プログラム

於 兵庫県立大学

2018年9月19日(水)～9月21日(金)

日本天文学会

日本天文学会 2018 年秋季年会プログラム

期 日 2018年9月19日(水)～9月21日(金)

場 所 兵庫県立大学姫路工学キャンパス(兵庫県姫路市)

電 話 090-4387-6893 <使用期間 2018年9月18日(火)～9月21日(金)>

月日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
9月18日 (火)							記者会見						
9月19日 (水)	A	受付		Z2. 高エネルギー	昼 休 み		ポスター	特別セッション (安全保障と天文学II)				理 事 会	
	B			W. コンパクト天体									
	C			X. 銀河形成									
	D			P1. 星・惑星									
	E			T. 銀河団/V2. 観測機器									
	F			N. 恒 星									
	G			R. 銀 河									
	H			P3. 星・惑星									
	I			V1. 観測機器									
	J			U. 宇 宙 論									
9月20日 (木)	A	受付	Z2. 高エネルギー	昼 休 み (代議員総会)	ポスター	Z1. 銀河相互作用	会員全体集会					懇 親 会	
	B		W. コンパクト天体										
	C		X. 銀河形成										
	D		P1. 星・惑星										
	E		V2. 観測機器										
	F		N. 恒星/V3. 観測機器										
	G		R. 銀河/Q. 星間現象										
	H		P3. 星・惑星/L. 太陽系										
	I		V1. 観測機器										
	J		U. 宇宙論/K. 超新星爆発										
9月21日 (金)	A	受付	Z1. 銀河相互作用	昼 休 み	ポスター	Y. 教育・他	特別セッション (天文教育フォーラム)						
	B		W. コンパクト天体										
	C		X. 銀河形成										
	D		P1. 星・惑星										
	E		V2. 観測機器										
	F		V3. 観測機器										
	G		Q. 星間現象										
	H		M. 太 陽										
	I		S. 銀 河 核										
	J		P2. 星・惑星										
9月22日 (土)							公開講演会						
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	

A会場 : A棟 1F (A101)

B会場 : A棟 1F (A102)

C会場 : A棟 2F (A202)

D会場 : A棟 2F (A203)

E会場 : A棟 2F (A208)

F会場 : 5号館 1F (5101)

G会場 : 5号館 1F (5103)

H会場 : 5号館 1F (5104)

I会場 : 5号館 1F (5105)

J会場 : 5号館 2F (5201)

受 付 : A棟 1F

ポスター会場 : 体育館

展示コーナー : 体育館

懇 親 会 : 灘菊酒造 西蔵

会 議 室 : 年会会場内にはありません

◎講演数

講演数：合計 619

(口頭講演 (a)：421、ポスター講演 (b)：163、ポスター講演 (c)：35)

◎参加登録について (参加者は、当日必ず参加登録をしてください。)

2011年秋季年会より、講演登録費は、講演申込時にお支払いいただく事になっています。

2016年秋季年会より、通常セッションにおける講演は会員に限られています。

○参加費用

	会 員	非会員
参 加 費	3,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込み)
	(但し講演ありの場合、参加費は無料)	
講演登録費	3,000 円 (不課税) (1 講演につき)	10,000 円 (1 講演につき)
	(但し事前支払がない場合は、会員 4,000 円、非会員 11,000 円)	
年会予稿集	2,000 円 (消費税込み)	2,000 円 (消費税込み) (購入希望者のみ)

○参加登録受付場所：受付

○参加登録受付時間：9月19日 10：00～16：00

9月20日 09：00～16：00

9月21日 09：00～13：30

※参加費は、会期中に受付にて忘れずにご納付ください。

※参加費用支払い時に渡される領収書は、再発行はできませんので、大切に保管してください。

※講演登録者は、講演申し込み後にキャンセル等しても、講演登録費の返金はいたしません。

※懇親会に参加される方は、隣の懇親会専用の受付にて懇親会の参加費をお支払いください。

◎講演に関する注意

1. 口頭発表は10会場で並行して行います。口頭講演(添字 a)は、口頭発表9分、質疑応答3分です。ポスター講演(添字 b)は、口頭発表3分、3講演で12分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. ポスター発表(添字 b)、(添字 c)は、9月19日の13：00から9月21日の13：30までポスター会場の指定された場所に掲示できます。終了後は速やかに撤去してください。ポスターサイズは縦180 cm×横90 cmです。
3. 講演には液晶プロジェクターをご使用ください。液晶プロジェクターは、セッション開始前にPCの接続を確認してください。講演時間は、直前の講演者が降壇した時点から計り始めます。迅速に講演が始められるよう、次の講演者は前の講演中にPCを接続しておいてください。

◎会期中の行事

月 日	時 間	会 場	行 事 名
9月18日 (火)	13:30～15:30	神戸市	記者会見
9月19日 (水)	15:00～17:00	A会場	安全保障と天文学II 特別セッション
9月20日 (木)	15:45～17:00	A会場	会員全体集会
	19:00～21:00	灘菊酒造 西藏	懇親会
9月21日 (金)	15:30～17:00	A会場	天文教育フォーラム
9月22日 (土)	13:30～16:00	じばさんびる	公開講演会

◎会合一覧表

月 日	時 間	会 場	会 合 名	参加可否 [※]
9月19日 (水)	13:00～14:00	C会場	理論天文学宇宙物理学懇談会報告会	C
	13:00～14:00	E会場	高エネルギー宇宙物理連絡会報告会	B
	13:00～14:00	F会場	光赤外線大学間連携合同会議	D
	13:00～14:00	I会場	宇宙電波懇談会総会	C
	19:30～21:00	じばさんびる	理事会	D
9月20日 (木)	11:30～12:30	B会場	代議員総会	D
	11:30～12:30	H会場	太陽研究者連絡会・運営委員会	D
	11:30～12:30	I会場	SKA-Japan 定期会合	B
9月21日 (金)	11:30～12:30	C会場	天文・天体物理若手の会総会	C
	11:30～12:30	E会場	光赤外線天文連絡会総会	C
	11:30～12:30	H会場	太陽研究者連絡会・報告会	C
	11:30～12:30	I会場	女性天文学研究者の会ランチミーティング	A

※年会参加者の参加可否の説明（オープン化の程度）

- A: 年会参加者なら誰でも大歓迎で是非来てほしい
- B: 年会参加者で興味を持った人には広く門戸を開いている
- C: 関係グループ向けの会合だが年会参加者なら特に拒みはしない
- D: 関係者のみにクローズした会合で非公開である

◎特別セッション：「安全保障と天文学Ⅱ：- 声明作成に向けて -」

日 時：2018年9月19日（水）15：00～17：00

場 所：A会場

概 要：科学者はその社会的責任を負うことを前提として、研究の自由を保障されているのです。しかし、過度の競争と短期的に目立つ成果が求められる昨今、科学と社会のかかわりについて積極的に考えるという姿勢が次第に失われています。日本学術会議は2017年3月24日に「軍事的安全保障研究について」と題した声明を発表しました。これは、基礎研究と軍事研究との関係という問題を再提起し、個々の科学者、各研究機関、各分野の学協会、そして科学者コミュニティが社会とともに真摯な議論を続けることを求めています。日本天文学会は、会員の皆様とともにこの問題を考える取り組みとして、天文月報に「安全保障と天文学シリーズ」の連載を行い、2018年春季年会において特別セッション「安全保障と天文学」を開催いたしました。2回目の開催となる本セッションでは、さまざまな立場や世代の方々からさらなる意見を募り、コミュニティの皆様との議論を重ね、日本天文学会からの声明の作成に向けて意見を集約します。

プログラム

1. はじめに
岡村 定矩（日本学術会議 連携会員）
2. コミュニティーの意見
池内了（総合研究大学大学院・名古屋大学 名誉教授）
戸谷 友則（東京大学 教授）
谷本 敦（京都大学 博士課程2年）
3. 総合討論
4. 挨拶
林 正彦（日本学術会議 連携会員）

世 話 人：柴田一成（京都大学）、須藤靖（東京大学）、梶田隆章（東京大学）、山崎典子（ISAS/JAXA）、野津湧太（京都大学）、林左絵子（国立天文台）、土居守（東京大学）、伊王野大介（国立天文台）、山下卓也（国立天文台）

主 催：公益社団法人 日本天文学会

共 催：日本学術会議

◎天文教育フォーラム：「市民との科学的活動を支えるオープンサイエンス」

日 時：2018年9月21日（金）15：30～17：00

場 所：A会場

概 要：教育フォーラムでは、これまでに市民との科学的活動を取り上げました。近年、研究データの公開が進み、研究者のみならず、誰でも興味のある人（ここでは、市民と表現します）が、それらのデータを利用して科学的活動ができるようになってきています。ハイアマチュアだけでなく、一般市民が研究データを使った科学的活動を楽しめるような取り組みは、研究成果の普及をはじめ、さまざまな発展へとつながっていくと思われます。今回のフォーラムでは、どのように研究者と市民双方にとって実りある科学的活動が可能になるか、「オープンデータ」が研究者と市民の活動の架け橋となる今後の「オープンサイエンス」への取り組みを考えていきます。

話題提供（敬称略）：

海老沢 研（JAXA/ISAS） 「JAXAの天文データアーカイブ（DARTS Astro）開発者からの視点」
白田-佐藤 功美子（NAOJ） 「すばる望遠鏡ハイパー・シュプリーム・カムのデータを使った「市民天文学」」

費 用：天文教育フォーラムのみの参加費は不要です。天文学会年会受付で、その旨お伝えください。

実行委員：木村かおる、富田晃彦、中申孝志、亀谷和久、高橋隼、鴈野重之

主 催：公益社団法人 日本天文学会 / 天文教育普及研究会

◎日本天文学会公開講演会

日 時：2018年9月22日（土）13：30～16：00（予定）（開場 13:00）

場 所：じばさんびる 901 号会議室（JR 姫路駅南口すぐ）

対 象：中学生以上・一般向け

テ ー マ：「地球の原子・分子から宇宙の惑星・生命へ」

ハビタブルな太陽系外惑星の発見などによって、天文学と生物学はお互いの関与を急速に深めつつあります。今回の公開講演会では、そのような研究の中から、兵庫県西部播磨地域との関わりの深い、二つの最新の研究内容をわかりやすく紹介して頂きます。

講師・タイトル：下記をご参照ください。

参加費：無料（事前申し込み不要）

定 員：180 名（先着順）

<講演内容の紹介>

講演 1：「小宇宙・生命の働きに迫る超高分解能顕微鏡 SPring-8」

講師：山本 雅貴 氏（理化学研究所・放射光科学研究センター利用システム開発部門 部門長）

深遠なる宇宙になぞらえて、小宇宙マイクロコスモスと称されることもある人体。総数 37 兆個とも言われる細胞から構成された人体も宇宙と同様に秩序と調和をもって維持されています。その膨大な細胞には人体の設計図として遺伝子が納められ、その遺伝子により作られる 2 万種類以上のタンパク質が生命を維持・運営しています。現代の生命科学研究ではこの生命の働きを司るナノマシンであるタンパク質の機能の解明を目指して、その原子レベルでのタンパク質の構造研究がさかんに進められています。播磨科学公園都市の放射光施設 SPring-8 でもその非常に明るい X 線による超高分解能顕微鏡としてタンパク質の構造機能研究に取り組んでいます。本講演では生命の働きに迫る SPring-8 のタンパク質研究を紹介します。

講演 2：「地球外生命との“コンタクト”」

講師：海部 宣男（国立天文台名誉教授／西はりま天文台名誉台長）

夜空に輝く星々の少なくとも二つに一つは、まわりに惑星を回らせていることがはっきりしてきました。何千個もの惑星が発見された結果、「惑星系」の常識は大きく変わっています。さらに、生命存在に適した惑星を探査し生命が存在する証拠をとらえることを目指して、新しい望遠鏡が続々と建設・計画されています。新世代の望遠鏡はどうやって「宇宙の生命」を追うのでしょうか。いっぼうで火星など私たちの太陽系での生命探査は、どう進むでしょうか。地球外文明、つまり「宇宙人」の探査も、天文学の視野に入ってきています。地球外生命との“コンタクト”は、いつ、どのように？ 21 世紀の天文学が拓きつつある新しい宇宙を紹介します。

プログラム、アクセスにつきましては開催地 HP (<http://www.nhao.jp>) をご覧ください。

主 催：公益社団法人 日本天文学会

後 援：姫路市、姫路市教育委員会

企 画：兵庫県立大学自然・環境科学研究所天文科学センター「西はりま天文台」

◎進路相談コーナー

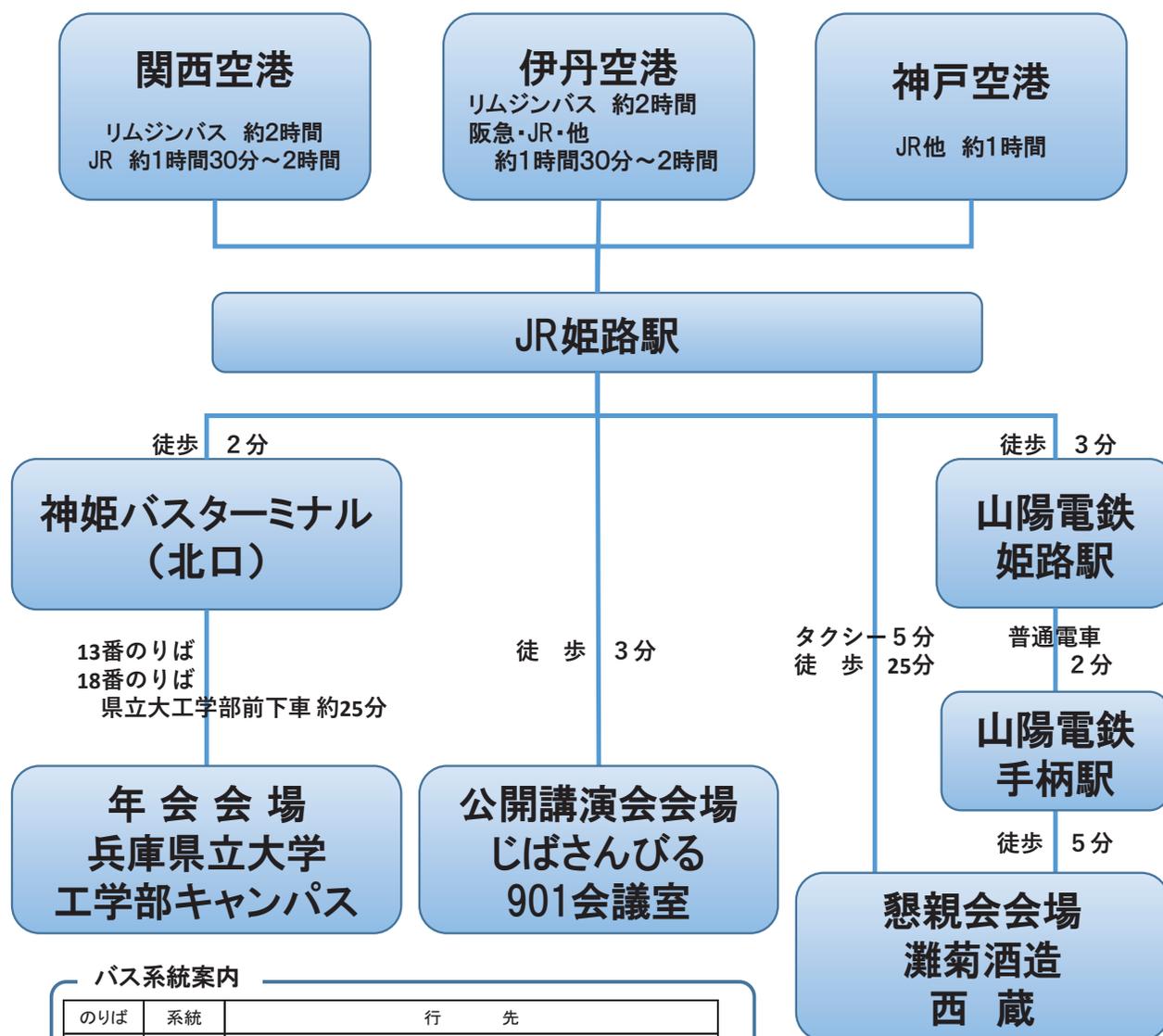
日 時：2018年9月20日（木）11：30～13：30

場 所：A 棟 1 階（予定）

概 要：大学院生及びポスドク研究員のみなさん、日々研究を進めるなかで将来について迷いや相談したいことはありませんか。キャリア支援委員会ではそのような皆さんの進路選択の一助になればと、進路相談コーナーを開催します。相談役には、ポスドクの方、および、大学や研究所などのいわゆるアカデミックポジション以外の道を選び、天文学とその周辺分野で学んだことを活かして社会のさまざまな場で活躍する先輩方をお招きする予定です。昼食を持ち込んでの相談も可です。ぜひ足を運んでみませんか？ もちろん相談内容に関する個人情報や秘密は厳守されます。なお、アドバイザーの出身分野や現在の仕事の内容については、決まり次第 Tennyet にて案内します（当日、会場でもご案内します）。

主 催：日本天文学会キャリア支援委員会

兵庫県立大学・会場へのアクセス



バス系統案内

のりば	系統	行 先
13	急行	姫路駅 ～ 県立大工学部 ～ SPring-8
	7	姫路駅 ～ 姫路高校前 ～ 県立大工学部
18	41	姫路駅 ～ 横関 ～ 書写 ～ 荒木
		姫路駅 ～ 横関 ～ 書写 ～ 荒木 ～ 古瀬畑
		姫路駅 ～ 横関 ～ 荒木 ～ 古瀬畑 ～ 山崎
	42	姫路駅 ～ 横関 ～ 書写 ～ 荒木
	43	姫路駅 ～ 横関 ～ 書写 ～ 緑台
	45	姫路駅 ～ 横関 ～ 書写 ～ 県立大工学部
姫路駅 ～ 横関 ～ 書写 ～ 県立大工学部 ～ 書写西住宅		

姫路駅周辺案内図



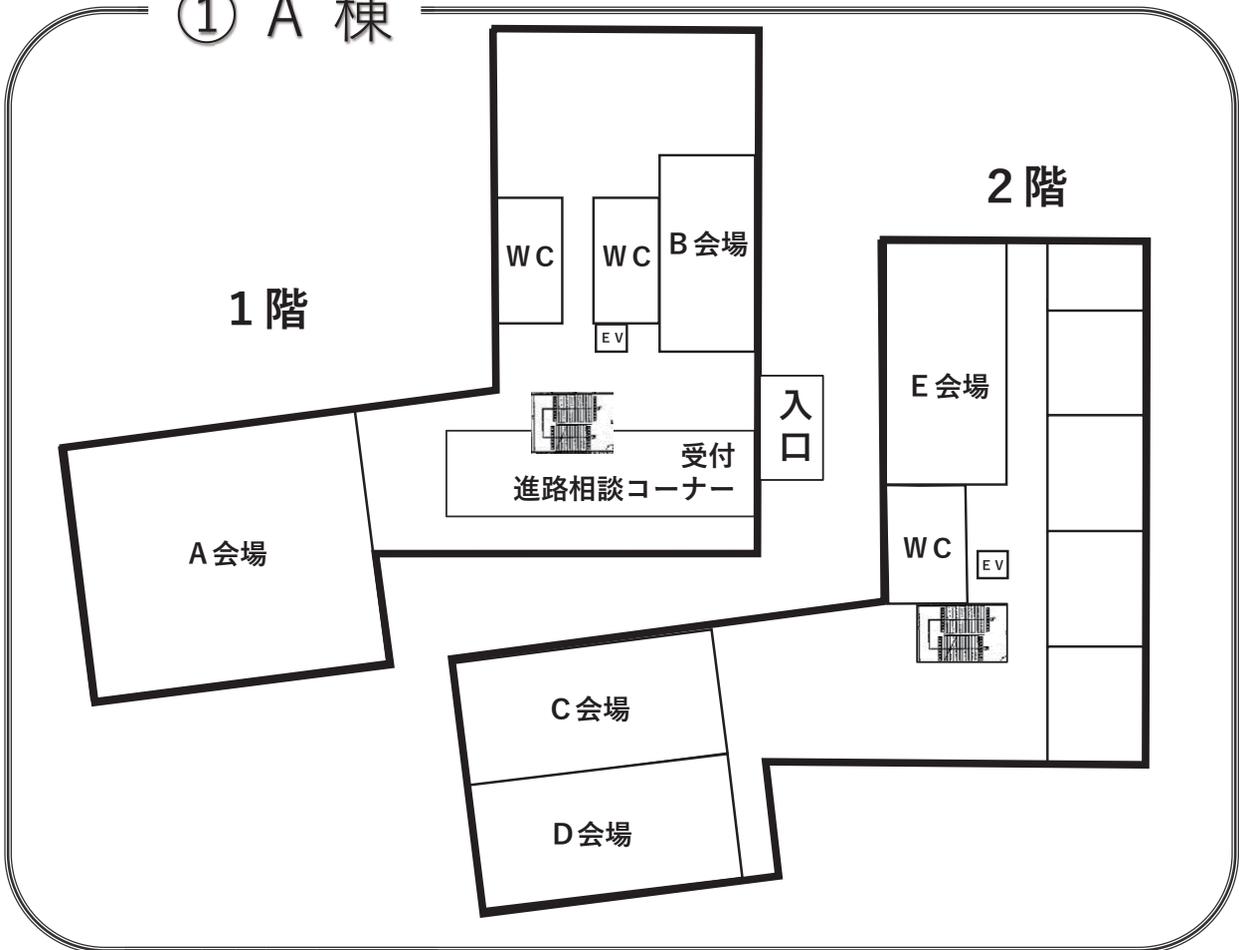
兵庫県立大学姫路工学部キャンパスマップ



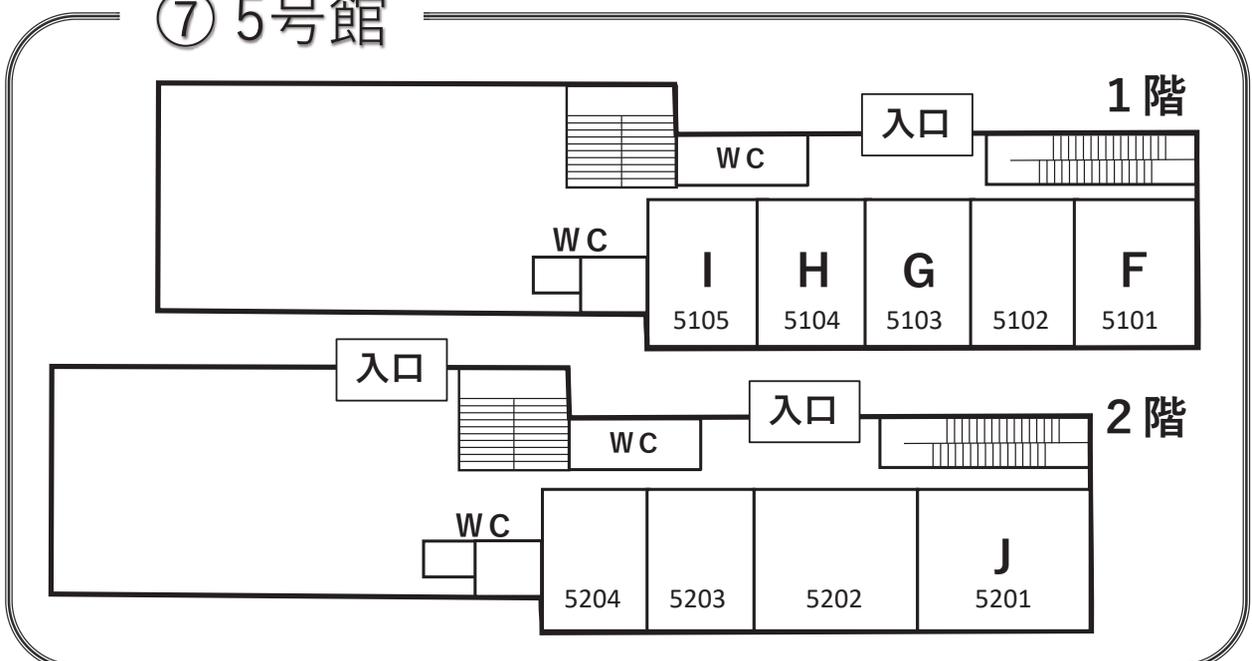
- バス停からA棟までは徒歩1分、5号館まではおよそ4分かかります。
- 大学敷地内は禁煙です。

年会会場案内図

① A棟



⑦ 5号館



口頭セッション 9月19日(水)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場	J会場
開始時刻	高エネルギー	コンパクト天体	銀河形成	星・惑星	銀河団/ 観測機器	恒星	銀河	星・惑星	観測機器	宇宙論
11:00	Z201r ? Z205a	W01a	X01a	P101a	T01a	N01a	R01a	P301a	V101a	U01a
11:12		W02b W03b W04b	X02a	P102a	T02a	N02a	R02b R03b R04b	P302a	V102a	U02a
11:24		W05b W07b W08b	X03a	P103a	T03a	N03a	R05a	P303a	V103a	U03a
11:36		W09a	X04a	P104b P105b P106b	T04a	N04a	R06b R07b R08b	P304a	V104a	U04a
11:48		W10a	X05a	P107a	T05a	N05a	R09b R10b R11b	P305a	V105a	U05a
12:00		W11a	X06a	P108a	T06a	N06a	R12a	P306a	V106b V107b V108b	U06a
12:12		W12a	X07b X08b X09b	P109a	V201a	N07a	R13a	P307a	V109a	U07a
12:24		W13a	X10a	P110b P111b P113b	V202a	N08a	R14a	P308a	V110b V111b V112b	U08a
12:36		W14a	X11b X12b X13b	P114a	V203b V204b V205b	N09a	R15a	P309a	V113a	U09a
12:48		W15b W16b W17b	X16b X17b X18b	P115a	V206a	N10a	R18b R19b R20b	P310a	V114b V115b V116b	U10a
13:00		-	-	P116b P117b P118b	-	-	-	P311a	-	U11a
13:12		-	-	-	-	-	-	P312a	-	U12b U13b
13:00		昼休み								
14:00	ポスター									
15:00	安全保障と天文学Ⅱ 特別セッション(A会場)									
19:30	理事会									

口頭セッション 9月20日(木)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場	J会場
開始時刻	高エネルギー	コンパクト天体	銀河形成	星・惑星	観測機器	恒星/ 観測機器	銀河/ 星間現象	星・惑星/ 太陽系	観測機器	宇宙論/ 超新星爆発
09:30	Z206a ? Z215r 全体討論	W20a	X20a	P119a	V207a	N11a	R21a	P313a	V118a	U15a
09:42		W21a	X21a	P120a	V208a	N12a	R22a	P314a	V119a	U16a
09:54		W22a	X22a	P121a	V209a	N13a	R23a	P315a	V120a	U17a
10:06		W23a	X23b X24b X25b	P122b P123b P124b	V210a	N14a	R24a	P316b L01b L02b	V121a	K01a
10:18		W24a	X26b X27b X28b	P125a	V211b V212b V213b	N15a	R26a	L03a	V122a	K02a
10:30		W25a	X29b X30b X31b	P126a	V214a	N16a	R27b	L04a	V123a	K03a
10:42		W26a	X32a	P127a	V215a	N17b	Q01a	L05a	V124a	K04a
10:54		W27a	X33a	P128a	V216a	V301a	Q02a	L06a	V125a	K05a
11:06		W28a	X34a	P129b P130b P131b	V217a	V302a	Q03a	L07a	V126a	K06a
11:18		W29b W30b W31b	X35a	P133b P134b P135b	V218a	V303a	Q04a	L08b L09b	V127b V128b	K07a
11:30	昼休み(代議員総会)(B会場)									
12:30	ポスター									
開始時刻	銀河相互作用	コンパクト天体	銀河形成	星・惑星	観測機器	観測機器	星間現象	太陽	観測機器/ 活動銀河核	超新星爆発/ 星・惑星
13:30	Z101r ? Z109b	W32a	X36a	P136a	V219a	V304a	Q05a	M01a	V133a	K08b K09b
13:42		W33a	X37a	P137a	V220a	V305a	Q06a	M02a	V134a	K10a
13:54		W34a	X38a	P138b P139b P140b	V221a	V306a	Q07a	M03a	V135a	K11a
14:06		W35a	X39a	P141a	V222a	V307a	Q08a	M04a	V136a	K12a
14:18		W36a	X40a	P142a	V223b V224b V225b	V308a	Q09b Q10b Q11b	M05a	V137a	K13a
14:30		W37a	X41a	P143a	V227a	V309b V310b V311b	Q12a	M06a	S01a	K14a
14:42		W38a	X42a	P144a	V228b V229b V230b	V312b V313b V314b	Q13a	M07a	S02a	P201a
14:54		W39a	X43a	P145a	V231a	V315b V316b V317b	Q14a	M08a	S03a	P202a
15:06		W40a	X44a	P146b P147b P148b	V232a	V318b V319b V320b	Q15a	M09a	S04a	P203b P204b P205b
15:18		-	X45a	P149b	V233b V234b V235b	V321b V322b	-	M10a	S05b S06b S07b	P206b P207b P208b
15:45	会員全体集会(A会場)									
19:00	懇親会(灘菊酒造「西藏」)									

口頭セッション 9月21日(金)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場	J会場
開始時刻	銀河相互作用	コンパクト天体	銀河形成	星・惑星	観測機器	観測機器	星間現象	太陽	活動銀河核	星・惑星
9:30	Z110r Z115a 全体討論	W41a	X46a	P150a	V237a	V324a	Q16a	M11a	S09a	P211a
9:42		W42a	X47a	P151a	V239b V240b V241b	V325a	Q17a	M12a	S10a	P212a
9:54		W43a	X48a	P152a	V243b V244b V245b	V326a	Q18a	M13a	S11a	P213a
10:06		W44a	X49a	P153a	V246a	V327a	Q19a	M14a	S12a	P214a
10:18		W45a	X50a	P154a	V247a	V328a	Q20a	M15a	S13a	P215a
10:30		W46a	X51a	P155a	V248a	V329a	Q21a	M16a	S14a	P216a
10:42		W47a	X52a	P156a	V249a	V330a	Q22a	M17a	S15a	P217a
10:54		W48a	X53a	-	V250a	V331a	Q23a	M18a	S16a	P218a
11:06		W49a	X54a	-	V251b V252b V253b	V332a	Q24b Q25b Q26b	M19b M20b M21b	S17a	P219a
11:18		W50a	X55a	-	V254a	V333a	Q27b Q28b	M22b M25b M26b	S18a	P220a
11:30	-	W51a	-	-	V255b V256b V257b	-	-	-	-	-
11:30	昼休み									
12:30	ポスター									
開始時刻	教育・他	コンパクト天体	銀河形成	星・惑星	観測機器	観測機器	星間現象	太陽	活動銀河核	星・惑星
13:30	Y01a	W52a	X56a	P157a	V260a	V334a	Q29a	M27a	S19a	P221a
13:42	Y02a	W53a	X57a	P158a	V261a	V335a	Q30a	M28a	S20a	P222a
13:54	Y03a	W54a	X58a	P159a	V262a	V336a	Q31a	M29a	S21a	P223a
14:06	Y04a	W55a	X59a	P160a	V263a	V337a	Q32a	M30a	S22a	P224a
14:18	Y05a	W56a	X60a	P161a	V264a	V338a	Q33a	M31a	S23a	P225a
14:30	Y06a	W57a	X61a	P162a	V265a	V339a	Q34a	M32a	S24a	P226a
14:42	Y07a	W58a	-	P163a	V266a	V340a	Q35a	M33a	S25a	P227a
14:54	Y08a	W59a	-	P164a	V267a	V341a	Q36a	M34a	S26a	P228a
15:06	Y09b Y10b Y11b	W60a	-	-	V268a	V342a	Q37a	M35a	S27a	P229a
15:18	Y12b Y13b	-	-	-	V269a	V343a	Q38a	-	S28a	P230a
15:30	天文教育フォーラム (A会場)									

ポスターセッション 9月19日(水) ~ 9月21日(金)

<p>【Z1. 銀河相互作用】(2)</p> <p>Z108b Z109b</p> <p>【Z2. 高エネルギー】(4)</p> <p>Z210b Z211b Z212b Z214c</p> <p>【K. 超新星爆発】(2)</p> <p>K08b K09b</p> <p>【L. 太陽系】(4)</p> <p>L01b L02b L08b L09b</p> <p>【M. 太陽】(8)</p> <p>M19b M20b M21b M22b M23c</p> <p>M24c M25b M26b</p> <p>【N. 恒星】(4)</p> <p>N17b N18c N19c N20c</p> <p>【P1. 星・惑星】(27)</p> <p>P104b P105b P106b P110b P111b</p> <p>P112c P113b P116b P117b P118b</p> <p>P122b P123b P124b P129b P130b</p> <p>P131b P132c P133b P134b P135b</p> <p>P138b P139b P140b P146b P147b</p> <p>P148b P149b</p>	<p>【P2. 星・惑星】(8)</p> <p>P203b P204b P205b P206b P207b</p> <p>P208b P209c P210c</p> <p>【P3. 星・惑星】(2)</p> <p>P316b P317c</p> <p>【Q. 星間現象】(8)</p> <p>Q09b Q10b Q11b Q24b Q25b</p> <p>Q26b Q27b Q28b</p> <p>【R. 銀河】(16)</p> <p>R02b R03b R04b R06b R07b</p> <p>R08b R09b R10b R11b R16c</p> <p>R17c R18b R19b R20b R25c</p> <p>R27b</p> <p>【S. 活動銀河核】(4)</p> <p>S05b S06b S07b S08c</p> <p>【T. 銀河団】(1)</p> <p>T07c</p> <p>【U. 宇宙論】(3)</p> <p>U12b U13b U14c</p>
--	---

ポスターセッション 9月19日(水) ~ 9月21日(金)

<p>【V1. 観測機器】(16)</p> <p>V106b V107b V108b V110b V111b</p> <p>V112b V114b V115b V116b V117c</p> <p>V127b V128b V129c V130c V131c</p> <p>V132c</p> <p>【V2. 観測機器】(33)</p> <p>V203b V204b V205b V211b V212b</p> <p>V213b V223b V224b V225b V226c</p> <p>V228b V229b V230b V233b V234b</p> <p>V235b V236c V238c V239b V240b</p> <p>V241b V242c V243b V244b V245b</p> <p>V251b V252b V253b V255b V256b</p> <p>V257b V258c V259c</p> <p>【V3. 観測機器】(15)</p> <p>V309b V310b V311b V312b V313b</p> <p>V314b V315b V316b V317b V318b</p> <p>V319b V320b V321b V322b V323c</p> <p>【W. コンパクト天体】(15)</p> <p>W02b W03b W04b W05b W06c</p> <p>W07b W08b W15b W16b W17b</p> <p>W18c W19c W29b W30b W31b</p> <p>【X. 銀河形成】(21)</p> <p>X07b X08b X09b X11b X12b</p> <p>X13b X14c X15c X16b X17b</p>	<p>X18b X19c X23b X24b X25b</p> <p>X26b X27b X28b X29b X30b</p> <p>X31b</p> <p>【Y. 教育・他】(5)</p> <p>Y09b Y10b Y11b Y12b Y13b</p>
--	---

Z1. 銀河相互作用で理解する銀河の進化

9月20日(木) 午後・A会場		9月21日(金) 午前・A会場	
13:30	Z101r In-situ evolution of high-redshift galaxies 但木謙一(国立天文台)	09:30	Z110r Galaxy interactions as triggers of star formation and nuclear activity Junko Ueda(NAOJ)
14:06	Z102a How are supermassive black holes in galaxies fed? Andreas Schulze(NAOJ)	10:06	Z111a アンテナ銀河における巨大星団形成 柘植紀節(名古屋大学)
14:18	Z103a Possible galaxy evolution through their interactions with the intracluster medium Liyi Gu(RIKEN)	10:18	Z112a 衝突合体銀河における星団の性質 松井秀徳(旭川工業高等専門学校)
14:30	Z104a Molecular gas and Star Formation Properties in Early Stage Mergers: SMA CO(2-1) Observations of the LIRGs NGC 3110 and NGC 232 Daniel Espada(NAOJ)	10:30	Z113a 子持ち銀河 M51 の相互作用領域に見られるHIガス流 立原研悟(名古屋大学)
14:42	Z105a 相互作用銀河 NGC 4567/4568 の分子ガス観測: 分子雲衝突面と内部構造 金子紘之(国立天文台)	10:42	Z114a マゼランシステム金属量の精密定量 山本宏昭(名古屋大学)
14:54	Z106a The changing molecular cloud population in galactic interactions Alexander Robert Pettitt(Hokkaido University)	10:54	Z115a Possible evidence for HI colliding flows triggering high-mass stars in the Small Magellanic Cloud 福井康雄(名古屋大学)
15:06	Z107a ALMA OBSERVATIONS OF HCN AND HCO ⁺ OUTFLOWS IN THE MERGING GALAXY NGC 3256 道山知成(総合研究大学院大学 / 国立天文台)	11:06	全体討論
15:18	Z108b The star formation properties of merging galaxies at $z < 2.5$ and separations 3-15 kpc Andrea Silva(NAOJ)		
15:18	Z109b COSMOS 領域のバースト的な星形成を起こしている銀河の定量的指標による形態解析 樋本一晴(愛媛大学)		

Z2. 高エネルギー宇宙ニュートリノから展開するマルチメッセンジャー天文学

9月19日(水) 午前・A会場		9月20日(木) 午前・A会場	
11:00	Z201r ニュートリノアラート IC170922A から始まるマルチメッセンジャー天文学 石原安野(千葉大学)	09:30	Z206a 多波長可視偏光同時観測で探るブレーザー天体の放射機構 伊藤亮介(東京工業大学)
11:36	Z202a ARA ニュートリノ望遠鏡で探る超高エネルギー深宇宙 間瀬圭一(千葉大学)	09:42	Z207a 低輝度ガンマ線バーストからのニュートリノ放射 坂本貴紀(青山学院大学)
11:48	Z203r マルチメッセンジャー観測で迫る高エネルギーニュートリノの起源天体 村瀬孔大(ペンシルベニア州立大学)	09:54	Z208a 高エネルギー宇宙ニュートリノ超新星起源説の観測的検証方法 田中雅臣(東北大学)
12:24	Z204r 高エネルギーガンマ線による IceCube ニュートリノ事象の追観測 林田将明(甲南大学)	10:06	Z209a GRAINE 計画と 2018 年気球実験 高橋覚(神戸大学)
13:00	Z205a ブレーザー TXS 0506+056 における高エネルギーガンマ線放射・ニュートリノ放射・宇宙線加速について 井上進(理化学研究所)	10:18	Z210b ブレーザー TXS 0506+056 の電磁波・ニュートリノ放射のハドロン成分卓越モデル 井上進(理化学研究所)
		10:18	Z211b IceCube イベントの可視近赤外追観測における新天体自動検出の一考察 山崎優衣奈(広島大学)
		10:18	Z212b 高萩 / 日立 32 m 電波望遠鏡を用いた対応天体探査の可能性について 米倉覚則(茨城大学)
		10:30	Z213a 大学 VLBI 連携観測網による突発天体の追観測体制 青木貴弘(山口大学)
			Z214c 光・赤外線天文学大学間連携による IceCube アラート対応 諸隈智貴(東京大学)
		10:42	Z215r 光学近赤外線における高エネルギーニュートリノ対応天体の追観測 山中雅之(広島大学)
		11:18	全体討論

K. 超新星爆発

K. 超新星爆発

9月20日（木）午前・J会場		9月20日（木）午後・J会場	
10:06	K01a 重力崩壊型超新星爆発における停滞衝撃波復活に対する回転と磁場の影響 藤澤幸太郎（早稲田大学）	13:30	K08b Ia型超新星に見られる intrinsic color diversity への分光学的アプローチ 有馬宣明（東京大学）
10:18	K02a 大質量星末期の外層におけるエネルギー散逸に対する外層の力学的応答と質量放出 大内竜馬（京都大学）	13:30	K09b 重力崩壊型超新星爆発における定常計算のための非線形連立方程式を数値的に計算する革新的な手法 藤澤幸太郎（早稲田大学）
10:30	K03a 星周物質との衝突による相互作用によって光る超新星における光度曲線の研究 武井勇樹（東京大学）	13:42	K10a 超高輝度超新星母銀河における隠された星形成 廿日出文洋（東京大学）
10:42	K04a IIP型超新星における偏光の起源：非球対称コア vs 星周ダスト散乱 長尾崇史（京都大学）	13:54	K11a Dust Formation and Emission in Pulsar-Driven Supernova Remnants Conor Omand(The University of Tokyo)
10:54	K05a 若い銀河に出現するIa型超新星の起源 岩田朔（東京大学）	14:06	K12a 超高輝度超新星のフォールバック降着モデルの系統的調査 守屋亮（国立天文台）
11:06	K06a 超新星の第一原理シミュレーションで十分な量のニッケルは生成可能か？ 諏訪雄大（京都産業大学）	14:18	K13a Failed supernova 内部でのニュートリノ振動とその観測的特徴 財前真理（東京大学）
11:18	K07a 超新星爆発時におけるプレソーラーSiC粒子の形成 野沢貴也（国立天文台）	14:30	K14a ニュートリノ球内部における核子散乱によるニュートリノスペクトルへの影響 加藤ちなみ（早稲田大学）

L. 太陽系

M. 太陽

9月20日(木) 午前・H会場		9月20日(木) 午後・H会場	
10:06	L01b 木星の偏光観測 池邊彩乃(兵庫県立大学)	13:30	M01a The NoRH/RHESSI Big Flare Catalogue Satoshi Masuda(Nagoya University)
10:06	L02b ALMA12m-Array/ACA/TP 同時観測による金星中層大気微量分子スペクトルの解析 青木亮輔(大阪府立大学)	13:42	M02a MHD 不安定性の臨界条件に基づく太陽フレア発生予測の試み 草野完也(名古屋大学)
10:18	L03a ピリカ望遠鏡による金星中層大気微量分子の近赤外分光観測・解析 築山大輝(大阪府立大学)	13:54	M03a 深層学習を用いた太陽フレア予測モデル開発: Deep Flare Net (DeFN) 西塚直人(情報通信研究機構)
10:30	L04a 土星リング粒子の衝突速度と最小粒子サイズ 川村浩司(神戸大学)	14:06	M04a 深層学習による画像認識を用いた太陽フレア予報システムの開発 木原孝輔(京都大学)
10:42	L05a 天文観測と隕石分析で探るC型小惑星の熱的進化過程 臼井文彦(神戸大学)	14:18	M05a II型太陽電波バーストのリアルタイム自動検出への取り組み 直井隆浩(情報通信研究機構)
10:54	L06a Planet Nine サーベイの進行状況とデータ解析 寺居剛(国立天文台)	14:30	M06a 深層学習と数値シミュレーションを用いたナノフレアの検出およびエネルギー導出手法の開発 河合敏輝(名古屋大学)
11:06	L07a 地球接近天体 2012 TC4 の観測: 木曾広視野カメラ Tomo-e Gozen を用いた高時間分解ライトカーブ 浦川聖太郎(日本スペースガード協会)	14:42	M07a MAXI-NICER 連携 (MANGA) による巨大恒星フレアの軟 X 線観測 岩切渉(中央大学)
11:18	L08b 広視野高速カメラ Tomo-e Gozen による高速移動 NEO の広域サーベイ 小島悠人(東京大学)	14:54	M08a X線、H α 線、電波による巨大恒星フレアの同時多波長観測体制の構築 河合広樹(中央大学)
11:18	L09b 軌道共鳴が確認できた流星群 司馬康生(SonotaCo Network)	15:06	M09a プラズモイド型乱流リコネクションのスケール則 銭谷誠司(京都大学)
		15:18	M10a 磁化プラズマ中の電場とオームの法則、それに磁場凍結 柴崎清登(太陽物理学研究所)

9月21日(金) 午前・H会場			
09:30	M11a 太陽大気におけるミリ波帯水素再結合線の探索 下条圭美(国立天文台)		M23c コロナ質量放出到来のリアルタイム予測システムの開発 塩田大幸(情報通信研究機構)
09:42	M12a 飛騨天文台 SMART/SDDI で観測された浮上磁場領域アーチフィラメントシステムの時間発展 町田亜希(京都大学)		M24c 高速風到来予測のための太陽風シミュレーションの自動化について 田光江(情報通信研究機構)
09:54	M13a 浮上磁場領域における最初の活動現象としての H-alpha surge の発生 (II) 石井貴子(京都大学)	11:18	M25b ガイド磁場印加リコネクションの自己相似的時間発展の特徴 新田伸也(筑波技術大学)
10:06	M14a Doppler velocity differences between ions and neutrals in a solar surge Huang Yuwei(Kyoto University)	11:18	M26b プロミネンス噴出の3次元磁気流体シミュレーション 金子岳史(名古屋大学)
10:18	M15a SUNRISE-3 気球実験: 偏光分光装置 SCIP による3次元磁場観測への挑戦 勝川行雄(国立天文台)	9月21日(金) 午後・H会場	
10:30	M16a 太陽 X 線の光子計測型・2次元集光撮像分光観測計画 (FOXSI-3 と PhoENIX) の進捗報告 成影典之(国立天文台)	13:30	M27a 黒点データ及び太陽表面磁場観測を用いた活動程度に関する研究 近藤克哉(名古屋大学)
10:42	M17a 超小型衛星による、宇宙空間からの太陽中性子の観測 山岡和貴(名古屋大学)	13:42	M28a 活動領域 NOAA12673 が与える次期太陽周期への影響 渡邊優作(名古屋大学)
10:54	M18a SMART 望遠鏡マグネトグラフ用インバージョンコードの開発 II 山崎大輝(京都大学)	13:54	M29a 黒点の拡散における太陽深部熱対流の影響 堀田英之(千葉大学)
11:06	M19b ヘリウム像偏光解析装置の開発 (I) 萩野正興(国立天文台)	14:06	M30a 太陽表面对流に伴う平均磁場輸送過程の数値的検証 飯島陽久(名古屋大学)
11:06	M20b コロナ硬 X 線源周辺領域における極端紫外線を用いたプラズマ診断 川手朋子(宇宙航空研究開発機構)	14:18	M31a ひので衛星で観測したスペクトル線幅から得られる太陽光球面乱流の空間分布 石川遼太郎(東北大学)
11:06	M21b マイクロ波及び硬 X 線放射の統計的研究による白色光フレア発生条件の特定 鶴田康介(防衛大学校)	14:30	M32a 太陽白斑領域の「ひので」CN バンド高分解能観測 末松芳法(国立天文台)
11:18	M22b 深層学習を用いたコロナ質量放出到来時間予測 関大吉(京都大学)	14:42	M33a マウンダー極小期中の低緯度オーロラの起原 磯部洋明(京都市立芸術大学)
		14:54	M34a 東アジアの新出史料に見る 1730 年代の巨大宇宙天気イベント 服部健太郎(京都大学)

N. 恒星

15:06	M35a 惑星間空間シンチレーション観測を用いたデータ同化型太陽嵐到来予測モデルの開発 岩井一正（名古屋大学）	9月19日（水）午前・F会場
		11:00 N01a 可視中分散分光観測によるM型矮星の特性決定 小泉陽平（東京工業大学）
		11:12 N02a 放射層を持たない晩期M型星の自転と定常X線光度の関係 佐藤樹（中央大学）
		11:24 N03a 巨大黒点を持つ近傍太陽型星のK2ミッション測光観測と同時高分散分光観測 野津湧太（京都大学）
		11:36 N04a 赤色巨星変光星の周期光度関係の微細構造について 高山正輝（兵庫県立大学）
		11:48 N05a 星風衝突 Wolf-Rayet 連星系 WR 125 のX線光度変動 御堂岡拓哉（東京大学）
		12:00 N06a X線分光を用いた Wolf-Rayet 連星系 WR 25 の星風測定 菅原泰晴（宇宙航空研究開発機構）
		12:12 N07a Be星プレオネのH α 輝線観測が示す伴星が円盤に与える影響 本田敏志（兵庫県立大学）
		12:24 N08a 共生星 AG Dra の2016-2018アウトバースト期における可視分光観測 安藤和子（岡山理科大学）
		12:36 N09a 磁気流体数値計算に基づくM8型星 TRAPPIST-1 の恒星風加熱・駆動機構の考察 坂上峻仁（京都大学）
		12:48 N10a 炭素過多 AGB 星における磁気駆動風での厚いダストシエルの形成 保田悠紀（北海道大学）

P1. 星・惑星形成

9月20日(木) 午前・F会場		9月19日(水) 午前・D会場	
09:30	N11a マグネシウム・ケイ素の過剰を示す炭素過剰星 LAMOST J2217+2104 青木和光(国立天文台)	11:00	P101a ALMA Observations of the 70 μ m Dark Massive Clump G14.49-0.14 Takeshi Sakai(The University of Electro-Communications)
09:42	N12a KIC11145123 内部に存在する速度シアとその物理的考察 八田良樹(総合研究大学院大学)	11:12	P102a Molecular complexity around a high-mass young stellar object in the Small Magellanic Cloud seen by ALMA 下西隆(東北大学)
09:54	N13a 3次元モデルに基づいた混合距離パラメータの制限 園井崇文(東北大学)	11:24	P103a Class I 低質量原始星天体 Elias 29 における円盤 / エンベロープ構造の解析 大屋瑤子(東京大学)
10:06	N14a 長周期変光星における VLBI と Gaia による年周視差の比較 中川亜紀治(鹿児島大学)	11:36	P104b ALMA observations toward the TUKH122 prectellar core in the Orion A cloud 大橋聡史(理化学研究所)
10:18	N15a 近赤外線高分散分光器 WINERED を用いた分子雲複合体 G23.3-0.4 近傍にある赤色超巨星の組成解析 谷口大輔(東京大学)	11:36	P105b C ¹⁸ O (J=1-0) 輝線によるオリオン座 A 分子雲の高密度コア探査 竹村英晃(国立天文台)
10:30	N16a Line-depth ratios as indicators of stellar parameters: the metallicity and gravity effects based on WINERED near-IR high-resolution spectra Mingjie Jian(The University of Tokyo)	11:36	P106b The CARMA-NRO Orion Survey 中村文隆(国立天文台)
10:42	N17b 原始惑星状星雲 QX Pup の近赤外線波長帯での変光周期の変化 儀間博考(鹿児島大学)	11:48	P107a 初期進化段階にある円盤構造を付随した超低質量原始星の探査 大小田結貴(東京大学)
	N18c IR-TMT と位置天文衛星の距離データを用いたレッドクランプ星の絶対等級の決定 小野里宏樹(東北大学)	12:00	P108a B335 における原始星近傍エンベロープガスの回転構造 今井宗明(東京大学)
	N19c Near-Infrared Thirty "Millimeter" Telescope による銀河面サーベイ(2) 幅崎裕太(東北大学)	12:12	P109a Hot Core のグリシン形成モデル 鈴木大輝(アストロバイオロジーセンター)
	N20c 北極星の脈動振幅の変動の共鳴仮説 II 石田俊人(兵庫県立大学)	12:24	P110b ALMA ACA 7m observations toward two Orion cores very close to the onset of star formation (2) 立松健一(国立天文台)
		12:24	P111b ALMA Pilot Survey of 70 μ m Dark, High-Mass Clumps Patricio Sanhueza(NAOJ)
			P112c "Warm" Cores and Molecular Outflows in 70 μ m Dark, High-Mass Clumps Patricio Sanhueza(NAOJ)

12:24	P113b ALMA-IMF: ALMA Transforms our View of the Origin of Stellar Masses Patricio Sanhueza(NAOJ)	10:18	P125a Pipe nebula における分子雲形成の研究 II 海老澤勇治(東京大学)
12:36	P114a 星形成領域 L1527 における炭素鎖分子 CCH の重水素化物の ALMA 観測 吉田健人(東京大学)	10:30	P126a Sagittarius arm における大質量星形成 西村淳(名古屋大学)
12:48	P115a ALMA Observations of Circumbinary Disks in Protostellar Binary Systems L1551 IRS 5 and NE Shigehisa Takakuwa(Kagoshima University)	10:42	P127a 分子雲破壊における解離光の役割: 残骸化学組成と星形成効率の抑制 猪口睦子(京都大学)
13:00	P116b Atacama Compact Array による小質量星形成領域分子雲コアの詳細観測 高宇辰(大阪府立大学)	10:54	P128a 分子雲コア L1544 中心領域における重窒素の希釈 古家健次(筑波大学)
13:00	P117b VLA を用いた赤外線暗黒星雲 G34.43+00.24 MM3 に対する NH ₃ 輝線観測 植松海(電気通信大学)	11:06	P129b 銀河面における前主系列星の広域探査 木内穂貴(埼玉大学)
13:00	P118b 原始星周囲の磁場構造 -ALMA のための疑似偏光観測シミュレーション - 藤城翔(名古屋大学)	11:06	P130b NRO 銀河面サーベイプロジェクト (FUGIN): Spitzer Bubble N4 の星形成 (2) 藤田真司(名古屋大学)
9 月 20 日 (木) 午前・D 会場		11:06	P131b NRO 銀河面サーベイプロジェクト (FUGIN): 銀経 10° - 20° でのホットコアカタログ 佐藤一樹(東京大学)
09:30	P119a 衝突 HI 流で形成される多相星間媒質の時間発展 小林将人(大阪大学)		P132c Star Formation Rates of Massive Molecular Clouds in the Central Molecular Zone Xing Lu(NAOJ)
09:42	P120a 分子雲形成シミュレーションで探る高密度クランプの統計的性質 岩崎一成(大阪大学)	11:18	P133b 星なし分子雲 CB126 の近赤外線撮像観測 苅田茉由(兵庫県立大学)
09:54	P121a 星形成初期段階分子雲コアの乱流ショックにより生じた暖かい CO ガス 徳田一起(大阪府立大学/国立天文台)	11:18	P134b 分子雲コアの角運動量の起源について (その 2) 三杉佳明(名古屋大学)
10:06	P122b ALMA アーカイブデータを用いた星形成領域におけるアミノ酸前駆体の探査 源治弥(東京工業大学)	11:18	P135b T タウリ型星の表面構造における磁場の役割 飯島陽久(名古屋大学)
10:06	P123b Unbiased Chemical Survey of Protostellar Sources in Perseus with ALMA 樋口あや(理化学研究所)	9 月 20 日 (木) 午後・D 会場	
10:06	P124b 大マゼラン雲における大質量原始星に付随する分子雲の ALMA 観測 後藤健太(大阪府立大学)	13:30	P136a BISTRO Project Status (4) Tetsuo Hasegawa(NAOJ)
		13:42	P137a BISTRO: 星形成領域における 450 μm 帯ダスト熱放射偏波撮像マップ 古屋玲(徳島大学)

13:54	P138b Herbig Be 型星 Z CMa の可視光分光モニタ一観測 秋本妃奈子(兵庫県立大学)	9月21日(金) 午前・D会場	09:30	P150a 大質量原始星の近赤外線変光の検出 吉田泰(東京大学)
13:54	P139b 孤立した Spitzer Bubble S44 に対する CO 輝線観測と星形成 河野樹人(名古屋大学)		09:42	P151a 大質量原始星周りでの Outflow-Confined HII 領域の時間変動・進化とその観測的特徴 田中圭(大阪大学/国立天文台)
13:54	P140b エネルギー保存を保證する自己重力流体方程式の差分法 花輪知幸(千葉大学)		09:54	P152a 大質量星形成領域 RCW106 分子雲の近赤外線偏光観測 玉置捷平(名古屋市立大学)
14:06	P141a 強い磁場を持つ星周円盤の内縁における激しい降着 高棹真介(名古屋大学)		10:06	P153a 銀河系での大質量星形成における光電離フィードバックの役割 細川 隆史(京都大学)
14:18	P142a 中心星付近の mass flow プロセスの時間進化: 近赤外線高分散分光器 WINERED による Tuuurs 星生成領域の中質量星の観測 安井千香子(国立天文台)		10:18	P154a Gaia DR2 を用いたオリオン領域の星形成過程の解析 西亮一(新潟大学)
14:30	P143a EHV 天体 MMS 5/OMC-3 におけるジェットの構造 松下祐子(九州大学)		10:30	P155a 中間質量ブラックホール形成モデルの精緻化に向けた恒星合体計算 山内俊典(東京大学)
14:42	P144a 原始星形成期におけるアウトフロー・ジェット・降着円盤・磁場の軸ずれ 平野信吾(九州大学)		10:42	P156a 連星を考慮した質量関数及びその重力マイクロレンズのレンズ星の質量推定値への影響 越本直季(東京大学/国立天文台)
14:54	P145a Rotation in the NGC 1333 IRAS 4C Outflow Yichen Zhang(RIKEN)			9月21日(金) 午後・D会場
15:06	P146b Gaia 衛星データと分光観測に基づく高銀緯分子雲における星形成探査 大朝由美子(埼玉大学)		13:30	P157a 始原ガスからの磁場散逸について 仲内大翼(東北大学)
15:06	P147b Gaia DR2 による Upper Scorpius OB アソシエーションとへびつかい座 ρ 分子雲星形成領域の解析 南祥平(新潟大学)		13:42	P158a 炭素過剰超金属欠乏星と宇宙初期における星・連星系形成史 (II) 藤本正行(北海学園大学)
15:06	P148b 始原ガス円盤分裂による多重星系形成可能性と数値計算法の不定性 島和宏(京都大学)		13:54	P159a `Oumuamua を始めとする恒星間天体との衝突による初代星の金属汚染 谷川衝(東京大学)
15:18	P149b Baryon-dark matter scattering and first star formation 平野信吾(九州大学)		14:06	P160a 2次元輻射流体計算による大質量星質量の金属度依存性の解明 福島肇(京都大学)
			14:18	P161a 星形成円盤中での分裂片の migration 過程と連星形成 鄭昇明(東北大学)

P2. 星・惑星形成

14:30	P162a Near-infrared Circular Polarization Survey in Star-forming Regions: 4 Jungmi Kwon(ISAS/JAXA)	9月20日(木) 午後・J会場
14:42	P163a 磁場が強い分子雲におけるフィラメントの形成と分裂 工藤哲洋(長崎大学)	14:42 P201a 分子雲コアの磁場と角運動量の傾きは円盤形成を促進するか?、それとも抑制するか? 塚本裕介(鹿児島大学)
14:54	P164a Serpens South Cloud の近赤外線偏光観測 楠根貴成(国立天文台)	14:54 P202a 星形成領域における Spin alignment 逢澤正嵩(東京大学)
		15:06 P203b ホットジュピターをもつ若い系 CI Tau まわりの遠方惑星の兆候探査 小西美穂子(アストロバイオロジーセンター)
		15:06 P204b 原始惑星系円盤から恒星へのガス降着に伴う短波長放射の理論モデル開発 青山雄彦(東京大学)
		15:06 P205b FU Ori 型星 V960Mon の分光モニター観測 II 高木悠平(国立天文台)
		15:18 P206b ダストとスノーラインの共進化: 数値計算法の開発 奥住聡(東京工業大学)
		15:18 P207b 円盤風による円盤構造形成の観測的特徴 高橋実道(工学院大学 / 国立天文台)
		15:18 P208b 粘性と摩擦を考慮した原始惑星系円盤における不安定性の詳細なモード解析 富永遼佑(名古屋大学)
		P209c 乱流分子雲コア中で形成した原始星、原始惑星系円盤、エンベロープの回転構造について 高石大輔(鹿児島大学)
		P210c 原始惑星系円盤と微惑星形成過程の関係性 長谷川幸彦(中部大学)

9月21日(金) 午前・J会場		9月21日(金) 午後・J会場	
09:30	P211a 遷移円盤をもつ天体 GM Aur の星近傍領域におけるハロー構造の空間分解 森智宏(東京大学)	13:30	P221a 星団形成期における星周円盤の破壊 長谷川大空(東京大学)
09:42	P212a Subaru/HiCIAO による LkH α 330 の H, Ks バンド偏光観測: スパイラルと溝の検出 鶴山太智(東京大学)	13:42	P222a コンドリュールが生存可能な原始太陽系星雲の条件について 瀧哲朗(東京大学)
09:54	P213a Gas and Dust Distribution in the Transitional Disk of a Sun-like Young Star, PDS 70 秋山永治(北海道大学)	13:54	P223a 原始惑星系円盤中の非理想磁気流体力学効果に依存する温度構造 森昇志(東京工業大学)
10:06	P214a Investigations of FS Tau A Circumbinary Disk Structures from Near-infrared and Sub-millimeter Observations Yi Yang(Astrobiology Center)	14:06	P224a ロスビー波不安定性の進化と軸対称成分の安定性推移 小野智弘(大阪大学)
10:18	P215a Investigating the gas-to-dust ratio in the protoplanetary disk of HD 142527 Kang-Lou Soon(Ibaraki University)	14:18	P225a SPH 法におけるシア問題の再考 稲吉勇人(名古屋大学)
10:30	P216a TW Hya まわりの原始惑星系円盤からの分子輝線の ALMA 観測 野村英子(東京工業大学)	14:30	P226a Linear and Non-linear Instability of Protoplanetary Disks Yoshiaki Kato(RIKEN)
10:42	P217a TW Hya の原始惑星系円盤に付随する局所的なサブミリ波超過の検出 塚越崇(国立天文台)	14:42	P227a 有機物マントルを持つシリケートダストの合体成長と微惑星形成 本間和明(東京工業大学)
10:54	P218a 原始惑星系円盤の近赤外線散乱光に対するダストサイズ・構造の影響 田崎亮(東北大学)	14:54	P228a 強い乱流が作る巨大惑星: 巨大ガス惑星形成のための条件 小林浩(名古屋大学)
11:06	P219a 原始惑星系円盤中の円盤風、ガス密度進化のダスト粒子成長への寄与 桑原滉(東京大学)	15:06	P229a 巨大衝突ステージにおける衝突・破壊を考慮した N 体シミュレーション 磯谷和秀(名古屋大学)
11:18	P220a 原始惑星系円盤で鉛直方向に巻き上げられた小粒子の周惑星円盤への降着 本間徹(神戸大学)	15:18	P230a プラズマプロセスによる星間環境変異原 / 核酸塩基アナログ / Tholin の形成 前澤裕之(大阪府立大学)

P3. 星・惑星形成

9月19日(水) 午前・H会場		9月20日(木) 午前・H会場	
11:00	P301a 円盤ギャップを持つ惑星の動径移動速度について 金川和弘(東京大学)	09:30	P313a 恒星フレア影響の評価に向けた、太陽系外惑星データベース ExoKyoto の整備 山敷庸亮(京都大学)
11:12	P302a Diversity of Planetary Architecture Out of the Observed Protoplanetary Disks Shijie Wang(The University of Tokyo)	09:42	P314a N 体計算による準惑星ハウメアのリング形成過程の検証 角田伊織(京都大学)
11:24	P303a 詳細な円盤化学進化計算を初期条件とした系外ガス惑星大気の平衡化学構造 野津翔太(京都大学)	09:54	P315a 太陽系外天体オウムアムアの形状の起源解明に向けて: 衝突引き伸ばしによる極端細長形状の形成条件 杉浦圭祐(名古屋大学)
11:36	P304a 自転傾斜角を持つ系外惑星の大気循環構造と熱光度曲線 大野和正(東京工業大学)	10:06	P316b 大気大循環モデルを用いた系外惑星の光度曲線解析による自転傾斜角推定 中川雄太(東京大学)
11:48	P305a 巨大氷惑星の衝突による水素大気損失 黒崎健二(名古屋大学)		P317c 周連星惑星の原始惑星系円盤における軌道進化とその安定性 山中陽裕(京都大学)
12:00	P306a ヘイズを持つ系外惑星の大気透過スペクトルモデル: 元素存在度の影響 川島由依(東京工業大学)		
12:12	P307a 高次の効果が見える惑星候補イベント: MOA-2013-BLG-551の解析 宮崎翔太(大阪大学)		
12:24	P308a 北天で発見された最近傍マイクロレンズ惑星イベントのフォローアップ観測 福井暁彦(国立天文台)		
12:36	P309a TRAPPIST-1 系の TTV 解析のためのトランジット観測と解析 森万由子(東京大学)		
12:48	P310a Discovery and Validation of ~100 New Planets from K2 John Livingston(The University of Tokyo)		
13:00	P311a 分光連星を対象とした星周に付随する巨大ガス惑星の探査 加藤則行(兵庫県立大学)		
13:12	P312a 視線速度法を用いた連星ブラックホールの探査—天体力学的摂動論の応用 林利憲(東京大学)		

Q. 星間現象

Q. 星間現象

9月20日(木) 午前・G会場		14:42	Q13a	野辺山 45m 電波望遠鏡を用いた超新星残骸 G166.0+4.3 に付随する分子雲の発見と過電離プラズマ生成起源への示唆 松村英晃 (Kavli IPMU)	
10:42	Q01a	小マゼラン雲中の高密度ダスト雲におけるコンパクト CO クランプの検出 竹腰達哉 (東京大学)			
10:54	Q02a	ALMA による小型高速度コンパクト雲の詳細観測 竹川俊也 (国立天文台)	14:54	Q14a	過電離プラズマ成因解明に向けた超新星残骸 W44 における分子雲からの影響の調査 尾近洗行 (京都大学)
11:06	Q03a	高速度コンパクト雲 CO 0.02-0.02 の 3 mm 帯ラインサーベイ観測 岩田悠平 (慶應義塾大学)	15:06	Q15a	大マゼラン雲の Ia 型超新星残骸 N103B に付随する分子雲の発見 佐野栄俊 (名古屋大学)
11:18	Q04a	ALMA による銀河系中心の衝突分子雲の検出 田中邦彦 (慶應義塾大学)	9月21日(金) 午前・G会場		
9月20日(木) 午後・G会場			09:30	Q16a	Chandra 衛星による超新星残骸 Tycho の縞状非熱的 X 線放射の時間変動観測 奥野智行 (京都大学)
13:30	Q05a	銀河系中心部の二重らせん星雲に付随する分子雲の詳細観測 榎谷玲依 (名古屋大学)	09:42	Q17a	機械学習 VAE を用いた Tycho の超新星残骸の X 線解析 岩崎啓克 (立教大学)
13:42	Q06a	銀河中心 SgrB2(M) の Envelope における有機物 CH ₃ CN の検出 荒木光典 (東京理科大学)	09:54	Q18a	Chandra X 線観測衛星を用いた超新星残骸 RX J1713.7-3946 北西領域の hot-spot の解明 日暮凌太 (立教大学)
13:54	Q07a	NRO 銀河面サーベイプロジェクト(FUGIN): 銀河系内域における分子雲同定 2 齋藤弘雄 (筑波大学)	10:06	Q19a	6.4 keV 鉄輝線を用いた超新星残骸における MeV 宇宙線の測定 信川久実子 (奈良女子大学)
14:06	Q08a	FUGIN に基づく野辺山アンモニアサーベイ(KAGONMA)の現状:W33 について 村瀬建 (鹿児島大学)	10:18	Q20a	すざく衛星による超新星残骸 IC 443 からの中性鉄輝線の発見 平山ありさ (奈良女子大学)
14:18	Q09b	野辺山 45m 望遠鏡を用いた outer 領域分子雲 Kag71 のアンモニアサーベイ 平田優志 (鹿児島大学)	10:30	Q21a	NuSTAR による超新星残骸 W49B の観測 (1): 熱的放射編 山口弘悦 (NASA/GSFC)
14:18	Q10b	SNR shock が分子雲スケールの化学組成に与える影響: NRO 45m による分子雲 G23.3-0.4 のマッピングラインサーベイ 吉村勇紀 (東京大学)	10:42	Q22a	NuSTAR による超新星残骸 W49B の観測 (2): 非熱的放射編 田中孝明 (京都大学)
14:18	Q11b	銀河系中心領域の磁気流体数値計算コード開発 柿内健佑 (名古屋大学)	10:54	Q23a	相対論的衝撃波における航跡場加速 岩本昌倫 (東京大学)
14:30	Q12a	スーパーバブル 30 Doradus C における衝撃波と星間ガスの相互作用 山根悠望子 (名古屋大学)	11:06	Q24b	プラズマ粒子 (PIC) シミュレーションのための新粒子解法 銭谷誠司 (京都大学)

11:06	Q25b	CTAによる超新星残骸 RX J1713.7-3946 の観測シミュレーション 高橋知也(山形大学)	15:06	Q37a	ペガサスループに付随する星間物質の詳細解析 佐伯駿(名古屋大学)
11:06	Q26b	「すざく」衛星によるペラ超新星残骸のパルサー周辺部の観測 金丸善朗(宮崎大学)	15:18	Q38a	Measuring the ionisation fraction across the Galaxy using Planck cold clumps Sarolta Zahorecz(Osaka Prefecture University /NAOJ)
11:18	Q27b	かに星雲の可視偏光における解析手法の構築 高木健吾(広島大学)			
11:18	Q28b	すばる望遠鏡 MOIRCS による銀河面拡散 X 線放射構成種族の深撮像観測 森鼻久美子(名古屋大学)			
9月21日(金) 午後・G会場					
13:30	Q29a	Chandra と XMM-Newton を用いた超新星残骸 G359.1-0.5 の X 線空間分解解析 鈴木寛大(東京大学)			
13:42	Q30a	パルサー星雲 G21.5-0.9 と 3C 58 での粒子の空間拡散と流体運動への反作用 石崎渉(東京大学)			
13:54	Q31a	XMM-Newton 衛星搭載の RGS による超新星残骸 N49 の X 線精密分光 天野雄輝(京都大学)			
14:06	Q32a	偏光 H α 輝線による超新星残骸衝撃波での宇宙線量の測定とライマン輝線捕獲の影響についての理論研究 霜田治朗(東北大学)			
14:18	Q33a	フェルミ衛星 LAT 検出器による近傍原子雲領域の星間ガス・宇宙線の研究 水野恒史(広島大学)			
14:30	Q34a	あかり全天サーベイデータを用いた V1065 Cen 周囲のダストの性質調査 遠藤いずみ(東京大学)			
14:42	Q35a	ガンマ線バーストの X 線残光を用いた天の川銀河の星間ガスの評価(2) 小山恭弘(広島大学)			
14:54	Q36a	冷たい水素原子ガスに着目したカメレオン座分子雲領域の星間物質の探査 林克洋(名古屋大学)			

R. 銀河

9月19日(水) 午前・G会場		12:12	R13a	次期位置天文観測衛星, 小型 JASMINE での銀河系中心核バルジの構造の解明 矢野太平(国立天文台)	
11:00	R01a	棒渦巻銀河の棒部における星形成の抑制 前田郁弥(京都大学)			
11:12	R02b	棒渦巻銀河 NGC253 における炭素同位体比 小西諒太郎(大阪府立大学)	12:24	R14a	N 体シミュレーションで探る天の川銀河 Hercules stream の起源 藤井通子(東京大学)
11:12	R03b	NRO レガシープロジェクト COMING(19): 銀河中の星形成効率の動径分布 村岡和幸(大阪府立大学)	12:36	R15a	Gaia DR2 による天の川銀河円盤の動力学 馬場淳一(国立天文台)
11:12	R04b	NRO レガシープロジェクト COMING(20): CO 分子ガス速度場のフーリエ解析から求 める銀河の基本量と棒状構造の角速度 野間勇斗(関西学院大学)		R16c	衝突系 1PN N 体シミュレーションの定式 化とコード作成 立川崇之(高知工業高等専門学校 / 早稲田大学)
11:24	R05a	NRO レガシープロジェクト COMING(21): CO 3 輝線で探る棒渦巻銀河における分 子ガスの物理状態と星形成 矢島義之(北海道大学)		R17c	銀河円盤の abundance gradient と親銀河 の性質の関係 隈井泰樹(熊本学園大学)
11:36	R06b	シミュレーションによる棒渦巻銀河の星形成 堀江秀(北海道大学)	12:48	R18b	Gravitational Field Flux Picture with Generalized Gauss's law of Gravity to Interpret the Rotation of Disk Galaxies Te Chun Wang(CSIC)
11:36	R07b	M51 の渦状腕に対する力学不安定解析 井上茂樹(Kavli IPMU / 東京大学)	12:48	R19b	近傍銀河の大局的磁力線構造 藏原昂平(鹿児島大学)
11:36	R08b	近傍渦巻銀河 M 83 の渦巻腕における巨 大分子雲の進化 杉内拓(大阪府立大学)	12:48	R20b	VLA-COSMOS 領域における多波長光度 関数進化 河野海(名古屋大学)
11:48	R09b	A GMC catalog for the Circumnuclear Disk of Centaurus A Rie E. Miura(NAOJ)	9月20日(木) 午前・G会場		
11:48	R10b	Star Formation Laws at GMC Scales along the Dust Lane of the Elliptical Galaxy NGC5128 (Centaurus A) Daniel Espada(NAOJ)	09:30	R21a	ALMA Resolves the Circumnuclear Disk of NGC 1808 in [CII] (1-0) Dragan Salak(Kwansei Gakuin University)
11:48	R11b	ENvironmental effect study for cluster galaxies with Molecular and Atomic gas observations (ENMA): ALMA observations of NGC 1316 in the Fornax cluster Kana Morokuma(ISAS/JAXA)	09:42	R22a	Gas dynamics in M100 revealed from high resolution CO(J=2-1) mapping Komugi, Shinya(Kogakuin University)
12:00	R12a	SAGA データベースを用いた銀河系の動 力学化学進化 . II 松野允郁(総合研究大学院大学)	09:54	R23a	矮小銀河 NGC 1569 の爆発的星形成 活動によるダスト変性の可能性 鈴木仁研(名古屋大学)
			10:06	R24a	矮小楕円体銀河における星形成史と暗 黒物質ハロー 佐々木秀幸(防衛大学校)

S. 活動銀河核

		9月20日(木) 午後・I会場	
	R25c 同一環境下にある Ultra-diffuse Galaxies の間欠的星形成の阻害要因について 釜谷秀幸(防衛大学校)	14:30	S01a ALMA View of the Circum-nuclear Disk of the Galactic Center Masato Tsuboi(JAXA)
10:18	R26a 銀河面からの軟 X 線背景放射 (5) 石原雅士(名古屋大学)	14:42	S02a 銀河系中心巨大 BH を巡る星 S2 の研究 1: すばる視線速度モニター観測の現状 西山正吾(宮城教育大学)
10:30	R27b NGC 4472 の広がった X 線放射 甲斐優(金沢大学)	14:54	S03a 銀河系中心巨大 BH を巡る星 S2 の研究 2: 一般相対論の検証への挑戦 齋田浩見(大同大学)
		15:06	S04a SDSS と WISE を用いた、可視光線で極めて青い Dust-Obscured Galaxies の探査 登口暁(愛媛大学)
		15:18	S05b 高感度 JVN 観測による VLBI 未検出高赤方偏移 AGN ジェットの大規模探査 古谷庸介(山口大学)
		15:18	S06b MCMC 法を用いた FSRQ 型活動銀河核ジェットの SED 解析 平出尚義(広島大学)
		15:18	S07b 弱い広輝線が母銀河でのフィードバック現象の検証に影響を与える可能性 川口俊宏(尾道市立大学)
			S08c 高光度赤外線銀河 NGC 5135 が持つ活動銀河核の広帯域 X 線スペクトル解析 山田智史(京都大学)
		9月21日(金) 午前・I会場	
		09:30	S09a 3C 279 の巨大ガンマ線アウトバーストの電子・陽電子カスケードモデル 浅野勝晃(東京大学)
		09:42	S10a ブレーザーの不規則な光度・偏光度変動の特徴量抽出と分類 植村誠(広島大学)
		09:54	S11a ブレーザー Mrk 421 の多波長・時系列データから探る放射領域の変動 山田悠梨香(広島大学)
		10:06	S12a ブレーザーの硬 X 線光度関数と MeV ガンマ線背景放射への寄与 (2) 深沢泰司(広島大学)

S. 活動銀河核

10:18	S13a	電波画像解析によるシュバルツシルト半径スケールから銀河スケールにわたる活動銀河核ジェットの形状調査 中原聡美(宇宙航空研究開発機構)	14:42	S25a	電波銀河 3C84 の中心 1 パーセクの遮蔽構造の非一様性 川勝望(呉工業高等専門学校)
10:30	S14a	相対論的流体中での光子多重散乱効果 高橋芳太(苫小牧工業高等専門学校)	14:54	S26a	Forming circumnuclear disks and rings in galactic nuclei: a competition between supermassive black hole and nuclear star cluster Alessandro Alberto Trani(The University of Tokyo)
10:42	S15a	$z > 2$ クエーサーにおける 25000km/s 超の Broad Absorption Line の探査 青木賢太郎(国立天文台)	15:06	S27a	可視光多バンド測光モニタ観測による PG 2308+098 の降着円盤サイズ測定 小久保充(東北大学)
10:54	S16a	突発的な光度変動を示すクエーサーの多色測光モニター観測 堀内貴史(国立天文台)	15:18	S28a	活動銀河核の広帯域スペクトルモデルの構築と観測への応用 久保田あや(芝浦工業大学)
11:06	S17a	超巨大質量ブラックホールの活動と銀河の進化に対するその影響 福田晋久(首都大学東京)			
11:18	S18a	ラインフォース駆動型円盤風の金属量依存性: 銀河-SMBH 共進化への影響 野村真理子(東北大学)			
9月21日(金) 午後・I会場					
13:30	S19a	AGN 輻射駆動噴水モデル III: Circinus 銀河における ALMA 観測との比較 泉拓磨(国立天文台)			
13:42	S20a	AGN 輻射駆動噴水モデル IV: 電離ガス領域の起源と性質 和田桂一(鹿児島大学)			
13:54	S21a	NGC1068 における AGN 周囲の回転高密度分子ガストーラスの発見 今西昌俊(国立天文台)			
14:06	S22a	銀河中心核トーラスの磁気流体力学的構造 工藤祐己(鹿児島大学)			
14:18	S23a	クランピートーラスからの X 線スペクトルモデルと NuSTAR data への適用 谷本敦(京都大学)			
14:30	S24a	超高光度赤外線銀河 IRAS 08572+3915 における CO 吸収線視線速度の時間変動 大西崇介(東京大学 / 宇宙航空研究開発機構)			

T. 銀河団

U. 宇宙論

9月19日(水) 午前・E会場		9月19日(水) 午前・J会場			
11:00	T01a	Swift/UVOTによるNGC1275の周りに広がった紫外線放射の解析 今里郁弥(広島大学)	11:00	U01a	POLARBEARによる原始重力波起源Bモード解析の現状とSimons Arrayパイプライン開発の進捗 茅根裕司(カリフォルニア大学)
11:12	T02a	近傍銀河団の $\sim r_{500}$ までの重元素分布 平井真一(東京理科大学)	11:12	U02a	巨大低密度領域におけるハローの質量関数とピーク統計 樋口祐一(ASIAA)
11:24	T03a	銀河団の質量-温度関係のFundamental Planeを用いた新解釈 藤田裕(大阪大学)	11:24	U03a	原初磁場の制限における問題点 山崎大(茨城大学/国立天文台)
11:36	T04a	平均位相空間分布を用いた銀河団の動力学質量の測定 濱端亮成(東京大学)	11:36	U04a	Big Bang Nucleosynthesis with an Inhomogeneous Primordial Magnetic Field Strength Yudong Luo(The University of Tokyo/NAOJ)
11:48	T05a	銀河団における中心銀河とホストダークマターハローの角度相関の時間進化 岡部泰三(東京大学)	11:48	U05a	Super-survey tidal effects in redshift space 秋津一之(Kavli IPMU)
12:00	T06a	HSC-SSP サーベイ領域 Weak Lensing 銀河団のX線フォローアップ計画(3) 吉田篤史(名古屋大学)	12:00	U06a	赤方偏移バイスペクトルの新しい定量化方と測定 杉山尚徳(Kavli IPMU)
	T07c	ALMA Detected Overdensity of Submillimeter Sources Around WISE/NVSS-selected $z \sim 2$ Dusty Quasars Andrea Silva(NAOJ)	12:12	U07a	Bispectrum covariance estimated from numerical simulations 高橋龍一(弘前大学)
			12:24	U08a	宇宙大規模構造におけるボイドの赤方偏移進化 簗口睦美(名古屋大学)
			12:36	U09a	ニュートリノによる宇宙大規模構造への力学的影響 吉川耕司(筑波大学)
			12:48	U10a	Pulsar Timing Arrayによる宇宙ひも起源の重力波バーストの探索 米丸直之(熊本大学)
			13:00	U11a	ダークマターの必要条件に 小堀しづ
			13:12	U12b	電磁気の軌道エネルギーはどうして光速で走るエネルギーに成るか。その原理。電磁気が秒速 3×10^8 mで進むときのエネルギーはいくらか。 小堀しづ

V1. 観測機器

13:12	U13b	An Iterative Data Reconstruction Method for Incomplete Measurements in All-Sky Surveys Nawalage Suchetha Manakal Cooray (Nagoya University)	9月19日(水) 午前・I会場
	U14c	宇宙の速度と引力は中心のブラックホールが作る。その式は、ブラックホール質量を 10^n 太陽質量とすると、ブラックホールが作る軌道エネルギー = $5.438 \times 10^{18} + 2n/3 \text{JKm} \div \text{距離}$ 、です。 小堀しづ	
			9月20日(木) 午前・J会場
09:30	U15a	超高増光率重力レンズ観測から何がわかるか？ 大栗真宗(東京大学)	11:00 V101a ALMA の運用(13)と拡張計画(7) 井口聖(国立天文台)
09:42	U16a	アンドロメダ銀河の広視野観測による原始ブラックホール探査 II 新倉広子(東京大学)	11:12 V102a ALMA band 2 (67-116 GHz) and 7+8 (275-500 GHz) receiver optics Gonzalez Alvaro(NAOJ)
09:54	U17a	大規模銀河サーベイ・弱重力レンズサーベイに向けた高速シミュレーションコードの開発 真喜屋龍(Kavli IPMU)	11:24 V103a 高臨界電流密度接合による ALMA band 10 ミキサの広帯域低雑音化 小嶋崇文(国立天文台)
			11:36 V104a Direct-Photonic Local system の検討 木内等(国立天文台)
			11:48 V105a 次世代 FITS ビューワ Vissage の開発: 偏波表示機能 川崎渉(国立天文台)
			12:00 V106b 超伝導デバイス性能向上への取り組み 2(SIS 接合のエッチング最適化について) 宮地晃平(国立天文台)
			12:00 V107b ALMA Band 7+8 (275 - 500 GHz) 導波管型 2SB ユニットの 2 次試作と評価 山屋陽香(電気通信大学)
			12:00 V108b テラヘルツ時間領域分光法を用いた光学定数測定の高精度化 吉岡佳輔(国立天文台/電気通信大学)
			12:12 V109a 多輝線同時観測のための 200 GHz 帯導波管型マルチプレクサの開発 中島拓(名古屋大学)
			12:24 V110b 220-350 GHz 帯 超広帯域導波管型周波数フィルタの開発 増井翔(大阪府立大学)
			12:24 V111b 高精度水晶傾斜計を用いた NANTEN2 望遠鏡指向誤差の調査 逆井啓佑(名古屋大学)
			12:24 V112b NASCO に向けた NANTEN2 制御系の開発: 7. 最適なスキャンパターンの検討 奥田想(名古屋大学)
			12:36 V113a 野辺山 45 m 電波望遠鏡における主鏡の変形測定 橋本育実(大阪府立大学)
			12:48 V114b 野辺山 45 m 電波望遠鏡における 22/43 GHz 帯同時観測評価 岡田望(大阪府立大学)

12:48	V115b 22/43GHz 帯分離および 43/86GHz 帯分離 Perforated Plate 型周波数フィルターの開発評価 木村公洋（大阪府立大学）	11:18	V127b LireBIRD 搭載光学系の開発検討 1 鹿島伸悟（国立天文台）
12:48	V116b 山口 32 m 電波望遠鏡を用いたパルサー観測の定常化 青木貴弘（山口大学）	11:18	V128b 水沢 10m 電波望遠鏡の気球 VLBI に向けた性能向上と今後の改良について 亀谷収（国立天文台）
	V117c 野辺山 45 m 電波望遠鏡搭載用 100-GHz 帯電波カメラの光学評価 村山洋佑（筑波大学）		V129c VERA-upgrade 計画の進捗 III 小山友明（国立天文台）
9 月 20 日（木）午前・I 会場			V130c VERA43GHz 帯用両偏波受信システムの開発と活動銀河核ジェットの生成・収束機構の研究 萩原喜昭（東洋大学）
09:30	V118a JAXA 深宇宙探査用新 54m アンテナ搭載 X, Ka 帯受信機の開発 長谷川豊（宇宙航空研究開発機構）		V131c JVN 大規模電波源探査に向けた感度測定試験観測 2 コヒーレンス時間の実測 元木業人（山口大学）
09:42	V119a 広帯域フィードの開発 (XIV) 氏原秀樹（情報通信研究機構）		V132c 電波点回折干渉計 (III) 奥村大志（筑波大学）
09:54	V120a 那須電波干渉計の現状 大師堂経明（（一社）電波天文学研究会）	9 月 20 日（木）午後・I 会場	
10:06	V121a 気球 VLBI 搭載用 Star Tracker(STT) の開発 下向怜歩（東京大学 / 宇宙航空研究開発機構）	13:30	V133a 宇宙マイクロ波背景放射観測実験 Simons Observatory 望遠鏡群の研究計画と開発状況 松田フレドリック (Kavli IPMU)
10:18	V122a 1.85m 電波望遠鏡新広帯域受信システムの開発進捗 上田翔汰（大阪府立大学）	13:42	V134a CMB 偏光観測実験 POLARBEAR-2 の開発状況 金子大輔 (Kavli IPMU)
10:30	V123a 超伝導検出器 MKIDs 用磁気シールドの設計と評価 沓間弘樹（東北大学 / 理化学研究所）	13:54	V135a 宇宙マイクロ波背景放射偏光観測実験 POLARBEAR-2 のレシーバーシステムの光学性能評価 3 濱田崇穂（東北大学）
10:42	V124a DESHIMA: 搭載試験の全観測データを対象とした詳細性能評価 谷口暁星（名古屋大学）	14:06	V136a 宇宙マイクロ波背景放射観測実験 POLARBEAR-2 の検出器読み出しチャンネルの割り当て検証手法の開発 廣瀬開陽（横浜国立大学）
10:54	V125a 宇宙背景放射偏光観測衛星 LiteBIRD の進展 菅井肇（東京大学）	14:18	V137a POLARBEAR 実験の監視カメラを用いた雲の偏光の調査 高倉理 (Kavli IPMU)
11:06	V126a 物理光学による LiteBIRD の低周波数帯の迷光評価 今田大皓 (LAL, Univ. Paris-Sud, CNRS/IN2P3, Univ. Paris-Saclay)		

V2. 観測機器

9月19日(水) 午前・E会場		10:30	V214a 気球搭載遠赤外線干渉計 FITE 実験経過 芝井広(大阪大学)
12:12	V201a Nano-JASMINE と小型 JASMINE の全体的な状況 郷田直輝(国立天文台)	10:42	V215a 気球搭載型遠赤外線干渉計 FITE のフライトに向けた干渉計調整結果 佐々木彩奈(宇宙航空研究開発機構)
12:24	V202a 小型 JASMINE の解析ソフトウェアの開発 山田良透(京都大学)	10:54	V216a 高感度 EUV/UV 分光望遠鏡衛星 (Solar-C_EUVST) : 全体進捗状況 清水敏文(宇宙航空研究開発機構)
12:36	V203b 小型 JASMINE 衛星の要素技術検証 II 上田暁俊(国立天文台)	11:06	V217a 高感度 EUV/UV 分光望遠鏡衛星 (Solar-C_EUVST) : サイエンスターゲット及び観測要求性能 今田晋亮(名古屋大学)
12:36	V204b 実測データを用いた小型 JASMINE 高精度迷光解析 2 鹿島伸悟(国立天文台)	11:18	V218a 高感度 EUV/UV 分光望遠鏡衛星 (Solar-C_EUVST) : 提案された装置と光学設計・キー技術 川手朋子(宇宙航空研究開発機構)
12:48	V206a WFIRST Coronagraph Polarimeter 田村元秀(東京大学 / アストロバイオロジーセンター)	9月20日(木) 午後・E会場	
9月20日(木) 午前・E会場		13:30	V219a 観測ロケット実験 CLASP2 : 紫外線高精度偏光分光観測装置の開発 石川遼子(国立天文台)
09:30	V207a 宇宙赤外線背景放射観測ロケット実験 CIBER-2 : プロジェクト進捗状況 松浦周二(関西学院大学)	13:42	V220a 高背景輝度での点源抽出や宇宙線の除去を行う超小型衛星用スタートラッカーの開発・軌道上実験について 間宮英生(東京工業大学)
09:42	V208a SPICA (次世代赤外線天文衛星) 計画の進展 山村一誠(宇宙航空研究開発機構)	13:54	V221a 赤外線天文衛星「あかり」近・中間赤外線カメラ IRC の絶対強度較正の再解析 出山拓門(神戸大学)
09:54	V209a SPICA 搭載中間赤外線観測装置 SMI : 概念検討結果 和田武彦(宇宙航空研究開発機構)	14:06	V222a The study of Mid-Infrared Imager and Spectrometer (MISC) for Origins Space Telescope (OST) Mission Concept 2 左近樹(東京大学)
10:06	V210a SPICA ペイロードモジュールの概念設計 東谷千比呂(宇宙航空研究開発機構)	14:18	V223b 木曾超広視野高速 CMOS カメラ Tomo-e Gozen FM 筐体の開発 II 高橋英則(東京大学)
10:18	V211b 宇宙赤外線背景放射観測ロケット実験 CIBER-2 : 望遠鏡光学性能評価 瀧本幸司(関西学院大学)	14:18	V224b 「なゆた望遠鏡」の可視分光器 MALLS に取り付け新 CCD カメラの開発 杉江祐介(兵庫県立大学)
10:18	V212b 宇宙赤外線背景放射観測ロケット実験 CIBER-2 : 光学系振動試験 佐野圭(関西学院大学)	14:18	V225b 天体観測用 X 線干渉計開発に向けた真空紫外線干渉計の開発 稲垣徳晃(立教大学)
10:18	V213b SPICA のための赤外線アレイ検出器のピクセルベースでの波長感度評価法の確立 土川拓朗(名古屋大学)		

	V226c 小型可視分光器 Alpy の性能評価 田邊健茲 (岡山理科大学)	09:42	V239b Subaru/IRCS 熱赤外偏光観測機能の 立ち上げ 2 - 偏光分光試験観測結果 本田充彦 (久留米大学)
14:30	V227a 回折限界モノリシック反射光学系: 冷却 環境下での光学性能評価 猿楽祐樹 (京都産業大学)	09:42	V240b すばる望遠鏡主鏡の反射率変化モデル 沖田博文 (国立天文台)
14:42	V228b 液晶チューナブルフィルター 1/8Å ブロッ クの製作 木村剛一 (京都大学)	09:42	V241b 光赤外線大学間連携事業における初心 者向けデータ解析講習会の実施報告 山中雅之 (広島大学)
14:42	V229b 光子計数による可視パルサー観測の ための半導体光センサの性能評価 荻原理沙 (山形大学)		V242c 天文データ・アーカイブをクラウド・コ ンピューティングにより安価に構築する 方法の検討 江口智士 (福岡大学)
14:42	V230b 高速偏光変調との同期を実現した H2RG 赤外線カメラ 花岡庸一郎 (国立天文台)	09:54	V243b JVO ポータル開発の進捗 白崎裕治 (国立天文台)
14:54	V231a 京大岡山 3.8 m 望遠鏡に搭載する装置 ローテータの設計 仲谷善一 (京都大学)	09:54	V244b 8 分割位相マスクとバイナリ瞳を併用し たコロナグラフ: すばる用の設計 西川淳 (国立天文台)
15:06	V232a せいめい望遠鏡に搭載する分割鏡制御 システム 木野勝 (京都大学)	09:54	V245b 8 分割位相マスクコロナグラフのための 液晶可変アポダイザの開発 渋谷恭平 (北海道大学)
15:18	V233b せいめい望遠鏡の鏡面形状 木野勝 (京都大学)	10:06	V246a 液晶空間光変調器を用いたサバール 板横シャリングナル干渉計のためのス ペックル除去技術の開発 2 河合研弥 (北海道大学)
15:18	V234b 3 点法による平面鏡の精密計測 栗田光樹夫 (京都大学)	10:18	V247a 小口径望遠鏡用可視補償光学試験装 置の開発 3: ESO La Silla 観測所 1 m 望遠鏡での試験観測 峰崎岳夫 (東京大学)
15:18	V235b ファイバー型面分光装置 KOOLS-IFU のせいめい望遠鏡との接続に向けた アップグレード 松林和也 (京都大学)	10:30	V248a 極限補償光学装置の開発: 実験とシ ミュレーションによる制御装置開発 藤田勝 (大阪電気通信大学)
	V236c 拡張フォーコーテスト 和田一馬 (京都大学)	10:42	V249a 極限補償光学装置の開発: FPGA を使 用した制御装置の開発 入部正継 (大阪電気通信大学)
9 月 21 日 (金) 午前・E 会場			
09:30	V237a FOCAS 用イメージスライサー型面分 光ユニット ファーストライト報告 尾崎忍夫 (国立天文台)	10:54	V250a シャックハルトマン波面センサーを用い た大気シンチレーション測定 大金原 (東北大学)
	V238c An add-on polarimeter for Subaru/ COMICS Takuya Fujiyoshi (Subaru Telescope)	11:06	V251b 極限補償光学装置の開発: 直接位相 計測型波面センサの開発 西岡秀樹 (京都大学)

V2. 観測機器

11:06	V252b 惑星観測用補償光学系における波面測定用惑星表面模様を選択方法 寺地慶祐(岡山理科大学)	14:18	V264a SuMIRe-PFS[12]-サーベイ計画の現状とサーベイシミュレーターの開発 矢部清人(Kavli IPMU)
11:06	V253b すばる望遠鏡レーザートモグラフィー補償光学の開発(II) 満田和真(東北大学)	14:30	V265a TAO 6.5m 望遠鏡用近赤外線観測装置 SWIMS の開発進捗:すばる望遠鏡でのファーストライト 本原顕太郎(東京大学)
11:18	V254a 太陽 SLODAR によるゆらぎ層分布推定へのスパースモデリングの導入 三浦則明(北見工業大学)	14:42	V266a 近赤外撮像分光装置 SWIMS 用多天体分光マスク設計 櫛引洗佑(東京大学)
11:30	V255b GLAO と画像処理による広視野太陽像回復の実験 三浦則明(北見工業大学)	14:54	V267a ボールエンドミルを用いた SWIMS-IFU 用鏡面の超精密加工 河野志洋(東京大学)
11:30	V256b 太陽シンチレーションモニタによる高度依存調査 浜屋ひかり(明星大学)	15:06	V268a TAO 6.5 m 望遠鏡用中間赤外線観測装置 MIMIZUKU の開発進捗: Aquarius 検出器の運用最適化とすばる望遠鏡でのファーストライト 上塚貴史(東京大学)
11:30	V257b 太陽像によるシーイングサイズの測定手法の開発 宮良碧(明星大学)	15:18	V269a TAO 6.5 m 望遠鏡用中間赤外線観測装置 MIMIZUKU の開発進捗:二視野合成機構 Field Stacker の試験と水蒸気量の短期変動による影響 内山允史(東京大学)
	V258c 西はりま VTOS によるスペックルデータを用いた連星の測定と評価 桑村進(北見工業大学)		
	V259c スペックル干渉法における物体パワースペクトル推定誤差の補正と評価 桑村進(北見工業大学)		
9月21日(金)午後・E会場			
13:30	V260a 重力波検出器による階層的な観測ネットワークを用いた連星合体の早期方向特定性能の見積もり(II) 藤井善範(東京大学)		
13:42	V261a 大型低温重力波望遠鏡 KAGRA の防振系 谷岡諭(総合研究大学院大学)		
13:54	V262a TMT 計画 - 進捗報告 臼田知史(国立天文台)		
14:06	V263a SuMIRe-PFS[11]-プロジェクト概要と装置開発進捗状況まとめ 2018 年秋季 田村直之(Kavli IPMU)		

V3. 観測機器

9月20日(木) 午前・F会場		14:42	V312b X線天文衛星代替機(XARM)搭載軟X線撮像装置のCCD駆動回路(FE)の開発 山岡和貴(名古屋大学)
10:54	V301a X線天文衛星代替機(XARM)搭載Resolveの開発の現状II 石崎欣尚(首都大学東京)	14:42	V313b X線天文衛星代替機(XARM)搭載Resolveのゲートバルブ用電磁弁及び機械式冷凍機冷却ファンの性能評価 佐藤浩介(埼玉大学)
11:06	V302a X線天文衛星代替機(XARM)搭載Resolve冷却系開発の現状 江副祐一郎(首都大学東京)	14:42	V314b 地球磁気圏X線撮像計画GEO-Xの現状 江副祐一郎(首都大学東京)
11:18	V303a X線天文衛星代替機(XARM)搭載Resolveの軌道上デブリ防護 野田博文(東北大学)	14:54	V315b 太陽X線観測ロケット実験FOXSI-3搭載薄膜フィルター開発 三石郁之(名古屋大学)
9月20日(木) 午後・F会場		14:54	V316b Super DIOS衛星搭載X線望遠鏡の検討 大塚康司(名古屋大学)
13:30	V304a X線天文衛星代替機(XARM)搭載Xtend用試作CCDの性能評価(1) 林田清(大阪大学)	14:54	V317b 高角度分解能X線望遠鏡の開発 津久井豊(立教大学)
13:42	V305a X線天文衛星代替機(XARM)搭載Xtend用CCDの放射線耐性 中嶋大(関東学院大学)	15:06	V318b 断熱消磁冷凍機を用いたX線マイクロカロリメータ動作環境の構築(6) 田中桂悟(金沢大学)
13:54	V306a X線天文衛星代替機(XARM)搭載Xtend用CCDの遮光性能 内田裕之(京都大学)	15:06	V319b X線多重像干渉計MIXIMの開発現状(2)モデルプランの策定と概念検討 林田清(大阪大学)
14:06	V307a 軟X線から硬X線の広帯域を高感度で撮像分光する小型衛星計画FORCEの現状(7) 中澤知洋(名古屋大学)	15:06	V320b 可視光用微小ピクセルCMOS検出器によるX線偏光検出 朝倉一統(大阪大学)
14:18	V308a Pt/C多層膜ブラッグ反射による低エネルギーX線用分光器の開発とX線測定環境での実用化 武尾舞(首都大学東京)	15:18	V321b 南極周回気球による硬X線偏光観測ミッションX-Caliburの現状と今後 内田和海(広島大学)
14:30	V309b X線天文衛星代替機(XARM)搭載Xtend用試用CCDの性能評価(2) 岩垣純一(大阪大学)	15:18	V322b GRAINE2018 豪州気球実験における時刻付与機構多段シフター報告~搭載エマルジョンフィルムの研究開発~ 松田菖汰(神戸大学)
14:30	V310b X線天文衛星代替機(XARM)搭載Xtend用試作CCDの性能評価(3) 米山友景(大阪大学)		V323c SMILE-2+: 広視野MeVガンマ線望遠鏡の性能評価と2018年豪州気球実験 高田淳史(京都大学)
14:30	V311b X線天文衛星代替機(XARM)搭載Xtend用CCDの放射線耐性(2) 佐藤仁(宮崎大学)		

9月21日(金) 午前・F会場		9月21日(金) 午後・F会場	
09:30	V324a ダークバリオン探査ミッション Super DIOS の開発へ向けた検討 II 佐藤浩介(埼玉大学)	13:30	V334a Cherenkov Telescope Array 計画: 全体報告(15) 手嶋政廣(東京大学)
09:42	V325a 積層配線 TES 型 X 線マイクロカロリメータの超伝導薄膜の膜厚比とメンブレン加工の開発 布村光児(首都大学東京)	13:42	V335a CTA 大口径望遠鏡初号機のカメラ最終試験報告 櫻井駿介(東京大学)
09:54	V326a 超伝導 TES カロリメータを用いた K 中間子原子の X 線精密分光プロジェクト(5) 早川亮大(首都大学東京)	13:54	V336a SMILE 実験計画と 2018 年豪州気球実験 SMILE-2+ 水村好貴(京都大学)
10:06	V327a X 線多重像干渉計 MIXIM の開発現状(1) サブ秒角の撮像達成 花坂剛史(大阪大学)	14:06	V337a SMILE-2+ 軟ガンマ線望遠鏡による 2018 年豪州気球実験の初期解析 吉川慶(京都大学)
10:18	V328a 炭素繊維強化プラスチック(CFRP)への X 線反射面形成法の開発 粟木久光(愛媛大学)	14:18	V338a ガンマ線バーストを用いた初期宇宙・極限時空探査計画 HiZ-GUNDAM の進捗 米徳大輔(金沢大学)
10:30	V329a 太陽 X 線観測に向けた高精度斜入射ミラー開発研究の状況 坂尾太郎(宇宙航空研究開発機構)	14:30	V339a 重力波源 X 線対応天体探査計画 Kanazawa-SAT ³ フライトモデル製作状況(2) 澤野達哉(金沢大学)
10:42	V330a 炭素繊維強化プラスチックを用いた湾曲結晶偏光計の鏡面精度の改良 塚田晃大(中央大学)	14:42	V340a 超小型衛星搭載広視野 X 線撮像検出器の撮像性能評価 鈴木大智(金沢大学)
10:54	V331a SOI 技術を用いた新型 X 線撮像分光器の開発 29: PDD 構造を持つイベント駆動型 X 線 SOI ピクセル検出器の性能評価 原田颯大(京都大学)	14:54	V341a 超小型衛星搭載ガンマ線検出器試作モデルの評価 渡辺彰汰(金沢大学)
11:06	V332a SOI 技術を用いた新型 X 線撮像分光器の開発 30: X 線 SOI ピクセル検出器の電荷雲サイズの測定 萩野浩一(東京理科大学)	15:06	V342a X 線偏光観測衛星 IXPE への参加現状(2) 三石郁之(名古屋大学)
11:18	V333a SOI 技術を用いた新型 X 線撮像分光器の開発 31: マルチカロリメータ実験を用いた X 線 SOI 検出器の電荷収集時間のピクセル内での位置依存性の評価 佳山一帆(京都大学)	15:18	V343a X 線偏光観測衛星 IXPE 搭載 X 線望遠鏡用受動型熱制御素子サーマルシールドの開発(3) 二村泰介(名古屋大学)

W. コンパクト天体

9月19日(水) 午前・B会場		12:24	W13a	連星中性子星合体の衝撃波加熱による自由中性子放出と初期の電磁波放射 石井彩子(東京大学)
11:00	W01a			超広視野高速カメラ Tomo-e Gozen による可視パルサー探査のための試験観測 一木真(東京大学)
11:12	W02b	12:36	W14a	Nonthermal afterglow of GW170817: a more natural electron energy distribution leads to a new solution with radio flux in the low frequency synchrotron tail Haoxiang Lin(The University of Tokyo)
11:12	W03b	12:48	W15b	Three-body encounters close to supermassive black holes: on the origin of the S-stars and the merger rate of black hole binaries Alessandro Alberto Trani (The University of Tokyo)
11:12	W04b	12:48	W16b	GW150914 に対する Swift/BAT による電磁波上限値の見積もり 富樫拓也(青山学院大学)
11:24	W05b	12:48	W17b	MOA 望遠鏡を用いた大質量ブラックホールの探索 宗像恒(名古屋大学)
	W06c		W18c	降着円盤の蒸発・凝縮に関する熱伝導を考慮した2次元磁気流体数値実験 金子岳史(名古屋大学)
11:24	W07b		W19c	X線連星のスペクトル状態遷移に関する熱伝導を考慮した2次元数値実験 II 中村賢仁(九州産業大学)
11:24	W08b	9月20日(木) 午前・B会場		
11:36	W09a	09:30	W20a	ブラックホール降着円盤から放出される大強度アルフヴェンパルスとジェット 水田晃(理化学研究所)
11:48	W10a	09:42	W21a	背景磁場を取り入れたジェット伝搬数値実験 大村匠(九州大学)
12:00	W11a	09:54	W22a	ブラックホールまわりの磁気リコネクション時間発展の数値解析 小出真路(熊本大学)
12:12	W12a	10:06	W23a	円盤降着流における輻射性衝撃波の構造 福江純(大阪教育大学)

W. コンパクト天体

10:18	W24a	X線連星における降着円盤風の放射流体シミュレーション 都丸亮太 (Kavli IPMU)	14:18	W36a	ブラックホール X線連星 MAXI J1828-249 の X線および可視光観測 小田苑会 (東京理科大学 / 理化学研究所)
10:30	W25a	一般相対論的輻射輸送計算で探る超臨界降着ブラックホール・中性子星の輻射スペクトルの差異とその起源 川島朋尚 (国立天文台)	14:30	W37a	X線新星 MAXI J1820+070 の X線・可視光モニタ観測 志達めぐみ (愛媛大学)
10:42	W26a	ブラックホール降着流におけるハード・ソフト遷移の大局的輻射磁気流体シミュレーション 五十嵐太一 (千葉大学)	14:42	W38a	X線放射輸送コード MONACO の開発の現状とその降着天体への応用 小高裕和 (東京大学)
10:54	W27a	ボルツマン方程式を解いた一般相対論的輻射磁気流体コードの開発 朝比奈雄太 (京都大学)	14:54	W39a	ジオメトリを考慮したブラックホール連星 Cyg X-1 の硬 X線スペクトル解析 會澤優輝 (東京大学)
11:06	W28a	スリム円盤モデルは正しかったのか？ 北木孝明 (京都大学)	15:06	W40a	硬 X線偏光検出器 PoGO+ 気球実験による Cygnus X-1 の偏光観測 高橋弘充 (広島大学)
11:18	W29b	円盤スペクトルが超臨界降着に与える影響 竹尾英俊 (京都大学)	9月21日 (金) 午前・B会場		
11:18	W30b	降着円盤における MRI の方位角方向解像度依存性 2 : 質量降着率への影響 町田真美 (九州大学)	09:30	W41a	古典新星 V612 Scuti の極大期の高分散分光観測 前原裕之 (京都大学)
11:18	W31b	活動銀河核におけるシンクロトロン偏光輻射輸送計算 恒任優 (京都大学)	09:42	W42a	強磁場激変星うみへび座 EX における再結合優勢プラズマの発見 迫聖 (奈良教育大学)
9月20日 (木) 午後・B会場			09:54	W43a	SU UMa 型矮新星 VW Hydr の降着円盤ガス量の時間変動解析 中庭望 (首都大学東京)
13:30	W32a	銀河系中心大質量ブラックホール SgrA * の 340 GHz 帯短期強度変動 (II) 三好真 (国立天文台)	10:06	W44a	初のアウトバーストを起こしたヘリウム激変星 SDSS J141118.31+481257.6 磯貝桂介 (京都大学)
13:42	W33a	すばる望遠鏡による大質量銀河中心ブラックホールの相対論効果の調査 大神隆幸 (大同大学)	10:18	W45a	超軟 X線源の前身としての、重い伴星と白色矮星を持つ矮新星 木邑真理子 (京都大学)
13:54	W34a	ブラックホールへの落下ガス雲の VLBI 直接撮像を想定したスピン測定法 森山小太郎 (国立天文台)	10:30	W46a	星風降着する X線連星系における角運動量輸送 鴈野重之 (九州産業大学)
14:06	W35a	X線新星 MAXI J1727-203 の発見と MAXI/GSC が検出した 2018 年度前半の突発現象 根来均 (日本大学)	10:42	W47a	重力崩壊型超新星爆発時に中心天体に戻ってくる物質を押し戻す活動性 茂山俊和 (東京大学)

10:54	W48a	MAXI, Swift, RXTE による X 線連星パ ルサー GS 1843-02 の軌道位相に依存 した X 線スペクトル変動 中島基樹 (日本大学)	14:54	W59a	ニュートリノ優勢降着円盤における磁気回 転不安定性乱流の磁気プラントル数依存 性とそれに伴う円盤不安定性の解析 川中宣太 (京都大学)
11:06	W49a	大質量 X 線連星 SMC X-1 からの高電 離鉄吸収線の発見とその起源 窪田恵 (理化学研究所 / 東京理科大学)	15:06	W60a	星とジェットとの相互作用で説明するプリ カーサー放射 伊藤裕貴 (理化学研究所)
11:18	W50a	降着駆動型 X 線パルサーにおける鉄 K 吸収線の光学的深さの自転位相変動 吉田裕貴 (立教大学)			
11:30	W51a	Be/X 線連星パルサー Swift J0243.6+6124 の Eddington 光度近傍にお ける X 線スペクトル、パルス波形の変化 大枝幹 (東京工業大学)			
9 月 21 日 (金) 午後・B 会場					
13:30	W52a	銀河中心ブラックホールの合体形成モ デルと重力波観測 真貝寿明 (大阪工業大学)			
13:42	W53a	低質量星団内におけるブラックホール 連星形成とその合体可能性 熊本淳 (東京大学)			
13:54	W54a	Ultra-Long Gamma-Ray Bursts and Tidal Disruption Events from Intermediate-Mass Black Holes in Collapsing Star Clusters 檜山和己 (東京大学)			
14:06	W55a	Why Are Some Gamma-Ray Bursts Hosted by Oxygen-rich Galaxies? 橋本哲也 (国立清華大学)			
14:18	W56a	低光度ガンマ線バースト GRB171205A の多波長放射モデル 鈴木昭宏 (国立天文台)			
14:30	W57a	Amati 相関から外れるハードで暗い GRB の X 線残光 勝倉大輔 (埼玉大学)			
14:42	W58a	非一様媒質中を伝搬する相対論的衝撃 波の下流磁場の非線形発展 富田沙羅 (青山学院大学)			

X. 銀河形成

9月19日(水) 午前・C会場		12:36	X13b	$z \sim 2.5$ の原始銀河団領域におけるクランピー銀河の割合とその環境依存性 鈴木智子(東北大学/国立天文台)		
11:00	X01a			X14c	HSC-HSC(Hybrid Search for Cluster with HSC) 山本直明(東北大学)	
					X15c	ディープラーニングとすばるHSCによるビックデータを用いた渦巻き銀河サンプルの構築 但木謙一(国立天文台)
11:12	X02a					
11:24	X03a			12:48	X16b	Effects of mass models on dynamical mass estimate: the case for ultra diffuse galaxy NGC1052-DF2 林航平(東京大学)
11:36	X04a			12:48	X17b	銀河のダスト進化と星形成タイムスケールの関係 長崎早也香(名古屋大学)
11:48	X05a			12:48	X18b	ダークマターモデルの違いによる宇宙大規模構造の変化について 市橋洋基(北海道大学)
12:00	X06a				X19c	Lagrange 的手法を用いたシミュレーションにおける resolution 制限 山本泰義(北海道大学)
12:12	X07b			9月20日(木) 午前・C会場		
				09:30	X20a	第一世代星形成における再結合放射の影響 田中賢(筑波大学)
12:12	X08b			09:42	X21a	高密度領域で形成される初代銀河からのライマンアルファ輝線放射 矢島秀伸(筑波大学)
12:12	X09b			09:54	X22a	The Onset of Star Formation 250 Million Years After the Big Bang 橋本拓也(大阪産業大学/国立天文台)
12:24	X10a			10:06	X23b	"Big Three Dragons": a $z = 7.15$ Lyman Break Galaxy Detected in [OIII] 88 μm , [CII] 158 μm , and Dust Continuum with ALMA 橋本拓也(大阪産業大学/国立天文台)
12:36	X11b			10:06	X24b	前主系列星を含む初代銀河スペクトルの理論計算 三谷啓人(東京大学)
12:36	X12b					

		9月20日(木) 午後・C会場
10:06	X25b	ALMAによる $z=6.11$ ライマンブレイク銀河における[OIII] $88\mu\text{m}$ 輝線の検出 須永夏帆(名古屋大学)
10:18	X26b	遠赤外線輝線を狙ったブラインド探査で探る遠方星形成史 早津夏己(東京大学/ヨーロッパ南天文台)
10:18	X27b	Star Forming Galaxies at the Cosmic Peak Epoch Viewed with Subaru, HST and ALMA 木村大希(東北大学)
10:18	X28b	静止系紫外輝線を用いた遠方銀河の性質診断 中島王彦(国立天文台)
10:30	X29b	強輝線銀河の測光赤方偏移における巨大な等価幅を持つ輝線の影響 平野洸(東北大学)
10:30	X30b	赤方偏移4における非常に活発な星形成銀河の紫外線スペクトルスロープ 山中郷史(大阪産業大学)
10:30	X31b	Derivation of $H\alpha$ luminosity from multi band photometry for galaxies at $z \sim 2.3$ 寺尾恭範(東京大学)
10:42	X32a	High-resolution ALMA observations of the brightest unlensed SMGs I: Discovery of a spiral structure in an extreme star forming galaxy at $z=4.2$ 伊王野大介(国立天文台/総合研究大学院大学)
10:54	X33a	High-resolution ALMA observations of the brightest unlensed SMGs II: Finding a gravitationally unstable gas disk in an extreme star-forming galaxy at $z = 4.3$ 但木謙一(国立天文台)
11:06	X34a	軸対称磁場による銀河渦状腕の不安定化とクランプ形成 井上茂樹(Kavli IPMU/東京大学)
11:18	X35a	大規模シミュレーションを用いた銀河サブストラクチャの統計的研究 森永優(千葉大学)
13:30	X36a	ダークマターハローのユニバーサルスケール関係 森正夫(筑波大学)
13:42	X37a	SCF法によるダークマターハローの cusp-core 遷移過程の解析 加藤一輝(筑波大学)
13:54	X38a	コールドダークマターハロー中の銀河風の線形安定性解析 永野裕太(筑波大学)
14:06	X39a	Construction of Multidimensional Luminosity/Mass Function of Galaxies with Vine Copula TAKEUCHI, Tsutomu(Nagoya University)
14:18	X40a	すばる望遠鏡 HSC データで探る $z < 1$ クェーサー母銀河の性質 石野亨(愛媛大学)
14:30	X41a	すばる望遠鏡 HSC データを用いた、 $z > 1$ のクェーサー母銀河のスタッキング解析 佐衛田祐弥(愛媛大学)
14:42	X42a	LAE fraction at $z=2.9-6.6$ probed by MUSE in the Hubble Ultra Deep Field 日下部晴香(東京大学)
14:54	X43a	$Ly\alpha$ 輝線銀河の高い電離光子生成効率 中島王彦(国立天文台)
15:06	X44a	Intensity Mapping による $z \sim 6$ 宇宙において LAE 周囲 1pMpc まで広がる $Ly\alpha$ 巨大構造の初検出 鹿熊亮太(東京大学)
15:18	X45a	クェーサー紫外放射による銀河周辺物質への影響 内山久和(総合研究大学院大学)

X. 銀河形成

9月21日(金) 午前・C会場		9月21日(金) 午後・C会場	
09:30	X46a Dust Attenuation of Star-Forming Galaxies in the first 2 Gyr of the Universe from the COSMOS ALMA Archive (A ³ COSMOS) Yoshinobu Fudamoto(Universit� de Gen�ve, Observatoire de Gen�ve)	13:30	X56a HSC-SSP データと深層学習による極金属欠乏銀河探査 小島崇史(東京大学)
09:42	X47a 星間塵のサイズ分布進化を取り入れた銀河スペクトルエネルギー分布モデルの構築 西田 和樹(名古屋大学)	13:42	X57a 銀河形成シミュレーションにおける超新星フィードバックの新たな実装方法 岡本崇(北海道大学)
09:54	X48a Discovery of an Extremely Luminous Dust-obscured Galaxy Observed with SDSS, WISE, JCMT, and SMA 鳥羽儀樹(京都大学/ASIAA)	13:54	X58a 経験的銀河モデルで探る銀河団銀河の星形成停止過程 大木平(Kavli IPMU)
10:06	X49a Chandra and ALMA Study of X-ray Irradiated Inter Stellar Media in the Central 100 pc of Circinus Galaxy Taiki Kawamuro(NAOJ)	14:06	X59a 星形成銀河からのアウトフローの遷音速解析 五十嵐朱夏(筑波大学)
10:18	X50a Near-IR Spectroscopic Observations of Massive Quiescent Galaxies at $z \sim 4$ 田中賢幸(国立天文台)	14:18	X60a 10万個のSDSSスペクトルで決定する星形成銀河のアウトフロー・銀河関係 菅原悠馬(東京大学)
10:30	X51a Spectroscopic confirmation of the most distant overdensity at $z = 6.6$ 播金優一(東京大学)	14:30	X61a 化学進化からみる銀河形成最盛期における星形成銀河のガスの降着と流出 深川奈桜(総合研究大学院大学/東北大学)
10:42	X52a A protocluster at $z = 2.5$ III. Cold gas kinematics Minju Lee(Nagoya University/NAOJ)		
10:54	X53a 赤方偏移 1.46 の遠方銀河団銀河の分子ガス量と星形成効率 林将央(国立天文台)		
11:06	X54a Dark satellite と矮小銀河の衝突シミュレーション 宮川銀次郎(筑波大学)		
11:18	X55a 銀河系矮小銀河の観測的不定性を考慮した暗黒物質分布推定 林航平(東京大学)		

Y. 天文教育・その他

9月21日(金) 午後・A会場	
13:30	Y01a 信濃における天文遊歴家朝野北水の足跡 陶山徹(長野市立博物館)
13:42	Y02a 日本におけるアストロツーリズムの可能性についての基礎調査 縣秀彦(国立天文台)
13:54	Y03a 可視光直視分光器VEGAの試用報告 竹内彰継(米子工業高等専門学校)
14:06	Y04a 国友レプリカ望遠鏡による太陽黒点スケッチの解析 野澤恵(茨城大学)
14:18	Y05a Gaia DR2 のデータと全天 H-alpha マップを用いた天の川画像の作成 加藤恒彦(国立天文台)
14:30	Y06a 3D プリンタを用いたすばる望遠鏡模型の製作 臼田 - 佐藤功美子(国立天文台)
14:42	Y07a 大学シラバスの保存状況と宇宙・天文関係講義の変遷調査 玉澤春史(京都大学/京都市立芸術大学)
14:54	Y08a 学校が開催する天体観測会の天候不良時対応について 佐々井祐二(津山工業高等専門学校)
15:06	Y09b 国立天文台天文データセンターによる講習会の報告 亀谷和久(国立天文台)
15:06	Y10b 系外惑星観測実習を含む総合科学教育プログラムの開発および評価 水村好貴(京都大学)
15:06	Y11b 国立天文台野辺山における星空撮影会 衣笠健三(国立天文台)
15:18	Y12b IB の教科書を用いた初等中等教育における国際的な天文教育の調査 福田尚也(岡山理科大学)
15:18	Y13b 人工衛星電波受信実験の高校物理教材化: 科学教室形式での実践 内山秀樹(静岡大学)

2018年8月20日発行

年会実行委員会

委員長	寺田幸功	(埼玉大学)
委員	石川遼子	(国立天文台)
	酒井剛	(電気通信大学)
	鈴木知治	(中部大学)
	鈴木竜二	(国立天文台)
	永井洋	(国立天文台)
	成田憲保	(東京大学)
	諸隈智貴	(東京大学)
	安井千香子	(国立天文台)
	町田真美	(九州大学) 保育室担当

年会開催地理事

伊藤洋一 (兵庫県立大学)